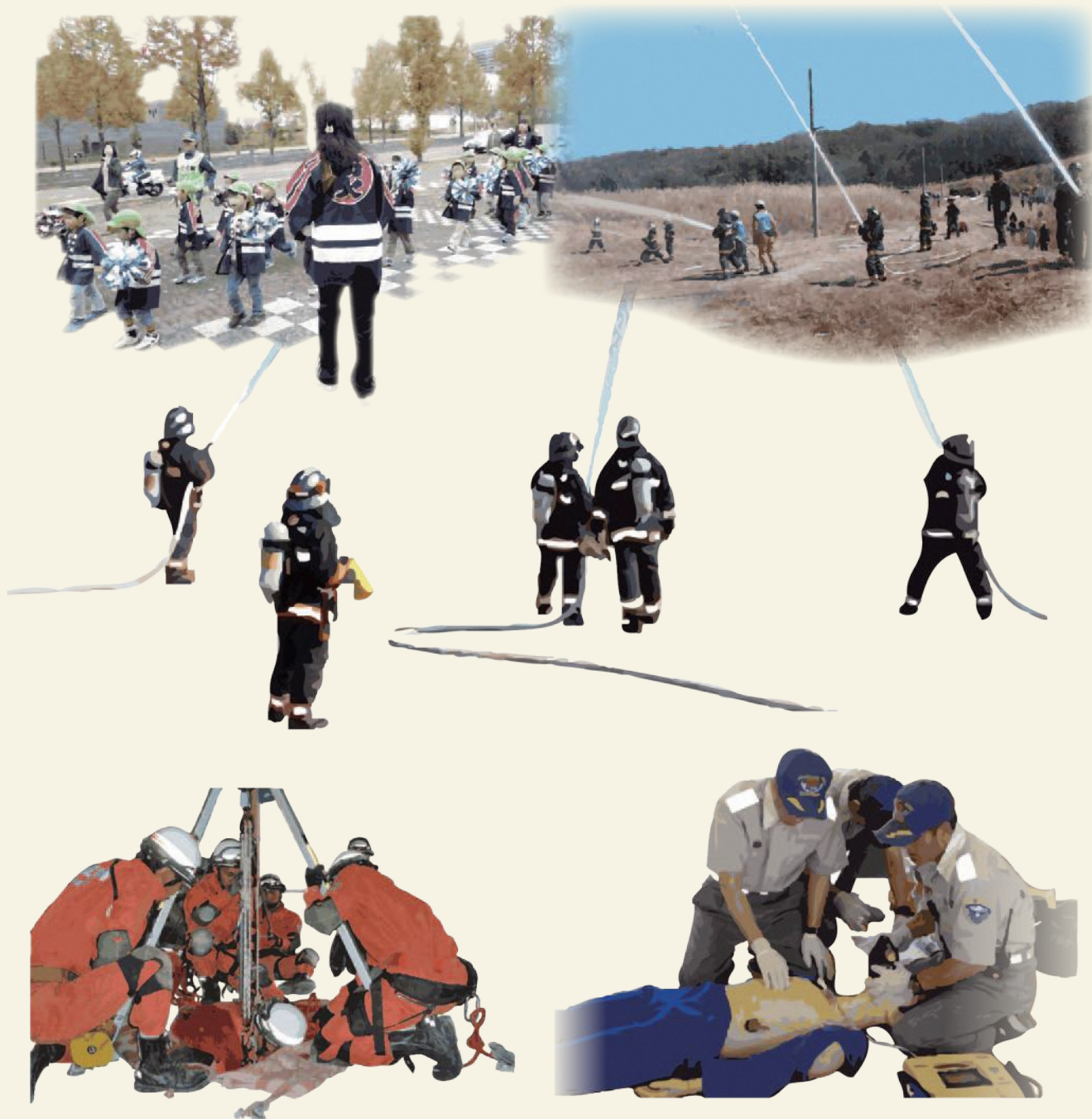


消 防 年 報

~ FIRE DEPARTMENT ~

40 周 年 記 念



精 華 町 消 防 本 部

目 次

精華町消防本部 消防年報 40周年記念

町長あいさつ	1
消防長あいさつ	2
精華町の概要	3
精華町の位置図	4
消防庁舎	5
精華町消防の沿革	5
人口推移	10
消防職員数の推移	10
消防団員数の推移	10
火災統計推移	11
救急出動件数推移	12
救助統計推移	12
災害事例	13
火災の予防と啓発	14
防火対象物の推移	15
消防用設備等	16
危険物施設	17

消 防 年 報

消防年報	18
------------	----

総務編

1 消防の組織及び機構	19
2 消防本部・署事務分掌	20
(1) 消防本部事務分掌	20
(2) 消防署事務分掌	22
3 消防予算の内訳（当初予算）	22
4 消防職員の状況	23
5 消防職員の年齢状況	23

消防団編

1 消防団員の状況	24
(1) 消防団員定数と実員及び配置状況	24
(2) 消防団員年齢状況	24
2 消防団表彰歴	25

予防編

1 消防用設備等設置状況	26
2 製造所等別の許可、完成検査及び廃止届等の状況	27
3 危険物施設の仮使用、危険物の仮貯蔵及び仮取扱の状況	27
4 危険物施設状況	28
5 防火指導状況	29
6 自主防災組織等状況	30
(1) 自主防災組織	30
(2) 精華町防火委員会	31
(3) 精華町婦人防火クラブ連合会	31
(4) 婦人防火クラブ	31
(5) 精華町幼年消防クラブ	31
(6) 消防支援ボランティア	32

消防編

1 消防無線設置状況	33
2 消防機械配置状況	34
(1) 消防本部・署	34
(2) 消防団	35
(3) 婦人防火クラブ	35
3 特殊機械器具等配置状況	36
4 消防水利の現状	39
(1) 消防水利の現状	39
(2) 防火水槽の現状	39

統計編

1 月別火災発生状況	40
2 曜日別覚知別火災発生状況	41
3 時間帯別種別火災発生状況	41
4 火災原因別発生状況	41
5 月別消防事故発生状況	42
6 過去5年間の火災件数推移	43
7 救急状況	44
8 曜日別救急出動状況	44
9 時間帯別救急出動状況	45
10 病院別搬送人員状況	45
11 年齢区分別事故種別救急搬送人員状況	46
12 事故種別傷病程度別救急搬送人員状況	46
13 行政区別事故種別救急出動状況	47
14 救急応援出動件数	48
15 過去5年間の救急件数推移	49
16 病院紹介状況表	49
17 月別救助発生状況	50
18 過去5年間の救助件数推移	51

ご 挨拶



精 華 町 長

木 村 要

精華町消防本部・消防署の発足40周年という節目の年を迎え、これまで精華町の消防行政の発展に大きくご貢献いただきました消防団の皆様をはじめ、関係いただきました皆様方に深く敬意と感謝を申し上げます。

精華町消防本部・消防署は、昭和49年に1本部・1署、職員11名体制で救急業務及び予防業務を開始いたしました。

その翌年（昭和50年）4月、菅井地区の踏切事故で近鉄電車が脱線、転覆するという、かつてない大惨事が発生した際には、人命を最優先しながら、負傷者の救出・搬送に専念する姿が今も脳裏から離れません。

発足から40年の歳月を経て今、職員51名を要する本部・署となりましたが、この間、精華町におきましては、関西文化学術研究都市の中心地として各種都市基盤の整備が進められ、美しい田園や里山の風景に加えて、21世紀のパイロットモデル都市にふさわしい都市景観が共存する魅力あふれるまちとして発展を遂げてまいりました。

発足当時1万3000人あまりだった町人口は3万7000人を超え、消防法に基づく防火対象物の数も40年前と比較して約10倍と飛躍的に増加しております。

都市化に伴い複雑・多様化する消防・救急需要への対応のみならず、各地で頻発する局地的集中豪雨や今後発生が想定される南海トラフ巨大地震への対応など、本町の消防行政に求められる役割は日増しに大きくなっております。

こうした中で、現消防庁舎につきましては、昭和51年の建築から既に38年が経過し老朽化が著しいことから、消防・救急体制の充実・強化を図り、町民の皆様に対する「公助」の防災拠点づくりを進めるため、本年度から2か年をかけまして建替事業を進めてまいります。

このたび、消防本部・消防署発足40周年を記念して、「消防年報 40周年記念」を刊行いたしましたので、町民の皆様をはじめ関係の皆様方にご一読いただき、精華町の消防行政に対するご理解を深めていただければ幸いです。

本町におきましては、第5次総合計画に掲げるまちの将来像「人を育み未来をひらく学研都市精華町」の実現に向け、今後も引き続き、消防団や自治会、自主防災組織などと連携を密にしながら、町民の皆様が安全・安心に暮らせるまちづくりに努めてまいりますので、より一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

ご 挨 拶



精華町消防長

大 矢 義 郎

精華町消防本部は皆様方のご理解ご協力を持ちまして、このたび発足40周年という節目を迎えることが出来ますことに心から感謝申し上げます。

当本部は昭和49年、住民の生命・身体・財産を守るため発足し、設立当初は木造平屋建て庁舎において、消防ポンプ車1台、救急車1台、消防長以下11名の職員で救急・火災予防業務を開始致しました。

40年という歳月の中で、開発に伴う急激な町の発展と社会情勢に加え、大規模化・複雑多様化する災害に対応するため、消防車両などの充実を図り、消防ポンプ車3台、高規格救急車2台、高度救助器材を積載した救助工作車や水防資器材搬送車など16台の車両を保有し、消防職員も消防長以下51名が勤務する組織となりました。

この間、住民から信頼される消防となるため、災害対応をはじめ日々の火災予防や住民防災指導・大規模救急救助訓練などを通して、「安全・安心のまちづくり」を遂行して参りました。

今日、私たち消防職員は、先人が築きあげられた輝かしい歴史と伝統を受け継ぎ、全力を挙げて消防防災体制の充実強化に取り組んでおります。

今後も、更なる体制強化を図り、安心して暮らせるまちを目指し、「自助・共助」の精神に基づく自主防災組織との連携強化を図り、住民の負託に応えられる組織の構築、人材の育成に努め、「公助」として地域防災の中核を担う消防団と共に、消防本部が総力を結集し、安全で安心して暮らせるまちを築きあげて参りますので、より一層のご支援とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

なお、今回発行の40周年記念は、精華消防の変遷が分かるようにと、職員が考え編集させていただきました。今後の精華消防に対する皆様のご理解にお役にたてれば幸いです。

精華町の概要

精華町は、京都府の南西端に位置し、日本そして近畿圏の中で、ほぼ地理的中心に位置しています。西部と南部はなだらかな丘陵、東部には平坦な農地が広がり、東端には木津川が流れ、自然に恵まれた環境が広がっています。

一方、京都・大阪・奈良の2府1県にまたがって建設がすすめられている「関西文化学術研究都市」(通称:けいはんな学研都市)の中心地として、大きく注目を浴び、都市建設の進展に伴って町の様子も大きく変化しています。

けいはんな学研都市は、産・官・学の協力と連携のもと、国家プロジェクトとして建設が進められ、国際電気通信基礎技術研究所(ATR)をはじめとする世界的な学術研究機関や国会図書館関西館などのほか、大手民間企業の研究施設や情報通信関連施設、最近では、オンリーワン技術を有し、研究開発から生産までを一貫して行う、研究開発型産業施設などが立地しています。

また、住宅や都市基盤整備も進み、主幹道路として京都・奈良・和歌山を結ぶ「京奈和自動車道」や「山手幹線」が一部供用開始となり、鉄道においては JR 学研都市線と近鉄京都線が南北に縦断し、「祝園駅」と「新祝園駅」が町の玄関口です。

「人を育み未来をひらく学研都市精華町」をまちの将来像に掲げ、「安全・安心のまちづくり」を進めています。

平成26年4月1日現在

位 置	北緯 34° 45′ 東経 135° 47′
面 積	25.66k㎡
町 域	東西 4.78km 南北 4.85km
人 口	37,318 人 男 17,960 人 女 19,358 人
世 帯 数	14,084 世帯

精華町の位置図

位置図



消防庁舎



精華町消防本部
精華町消防署
精華町消防団本部

〒619-0244
京都府相楽郡精華町大字北稲八間小字寄田長31番地
TEL：0774-94-5119 FAX：0774-94-5493
精華町ホームページ <http://www.town.seika.kyoto.jp>

精華町消防の沿革（沿革録より抜粋）

大正 10年 10月 13日	相楽郡狛田村 151 人、稲田村 151 人、祝園村 151 人で各村 3 部編成並びに山田荘村 321 人で 4 部編成し、それぞれ消防組を設置する。
昭和 6 年 10 月 1 日	相楽郡狛田村、稲田村及び祝園村を合併し 503 名 10 部編成で川西村消防組を設置する。
昭和 8 年 1 月 5 日	川西村消防組の定員を 207 人とし、6 部編成する。
昭和 14 年 4 月 1 日	各消防組を川西警防団（207 人 6 部編成）及び山田荘警防団（230 人 4 部編成）に改める。
昭和 22 年 10 月 3 日	各警防団を川西村消防団（207 人 6 部編成）及び山田荘村消防団（230 人 4 部編成）に改める。
昭和 24 年 12 月 26 日	川西村消防団無火災により京都府消防協会長より表彰を受ける。
昭和 26 年 4 月 1 日	川西村、山田荘村合併に伴い精華村消防団を結成し、齊藤源太氏、消防団長に就任する。
昭和 28 年 2 月 1 日	田尻定一郎氏、消防団長に就任する。
昭和 29 年 10 月 10 日	山城ブロック消防ポンプ操法競技会において成績第 1 位に付き京都府消防協会長より竿頭綬を授与される。
昭和 30 年 4 月 1 日	精華村が精華町に改められ、精華町消防団と改め、定員を 345 人とする。
昭和 32 年 6 月 14 日	精華町消防委員会条例を制定する。
昭和 34 年 2 月 19 日	精華町消防団の組織等規則を制定する。
4 月 1 日	精華町消防団条例を制定する。
昭和 36 年 2 月 1 日	前田儀一氏、消防団長に就任する。

昭和37年 3月28日	精華町火災予防条例を制定する。
昭和39年 7月21日	精華町非常備消防団員に係る退職報償金の支給に関する条例を制定する。
昭和40年10月29日	精華町消防団員の定員、任免、給与及び服務等に関する条例を制定し、団員の定員289人を265人に改める。
昭和41年 8月 4日	精華町消防団員等公務災害補償条例を制定する。
昭和43年10月24日	京都府知事から竿頭綬を授与される。
昭和46年10月21日	京都府知事定例表彰により竿頭綬を授与される。
昭和47年 4月 1日	精華町職員消防隊を設置し、定員15人とする。
12月 1日	昭和47年度優良消防団として、京都府消防協会から表彰旗を授与される。
昭和48年 4月 1日	川本常一氏、消防団長に就任する。
11月 1日	職員3名第1期生として採用する。
昭和49年 3月30日	精華町消防本部及び消防署の設置等に関する条例を制定する。 名称 精華町消防本部 位置 精華町大字北稲八間小字丸山7番地 名称 精華町消防署 位置 精華町大字北稲八間小字丸山7番地
3月30日	精華町消防本部組織規則を制定する。
3月30日	精華町消防吏員階級規則を制定する。
3月30日	消防団の編成を3分団13部とし、団員の定員301人を351人に改める。
4月 1日	精華町消防の用に供する貯水施設等設置基金条例を制定する。 職員6名第2期生として採用する。
6月25日	精華町救急活動規定を制定する。
6月25日	精華町消防吏員服制規則を制定する。
6月25日	精華町消防署組織規定を制定する。
6月25日	精華町消防職員の勤務時間、休日及び休暇等に関する取扱規程を制定する。
10月 1日	消防本部・署が発足。
10月 1日	寺川湖三氏、消防長に就任する。
10月 1日	消防長以下11名にて救急業務及び予防業務を開始する。
10月 1日	消防団本部を消防本部内に移す。
10月14日	町体育館等にて消防本部・署開署式及び開署記念パレードを実施する。
12月 1日	職員8名第3期生として採用する。
昭和50年 4月 1日	職員4名第4期生として採用する。
4月30日	自治省告示第121号にて消防本部及び消防署を置かなければならない市町村に指定され、昭和51年4月1日から効力発生する。
9月30日	精華町火災予防条例を全面改正する。
9月30日	精華町消防賞じゅつ金条例を制定する。
10月 1日	精華町消防通信規程を制定する。 職員3名第5期生として採用する。

昭和51年 2月17日	精華町消防機械器具に関する規程を制定する。
3月30日	精華町消防吏員、消防団員の訓練及び礼式に関する規則を制定する。
3月30日	精華町消防吏員服装規程を制定する。
3月30日	精華町消防団の組織等に関する規則を全面改正する。
3月30日	精華町消防吏員被服等貸与に関する規程を制定する。
3月30日	精華町消防賞じゅつ金審査委員会規程を制定する。
4月 1日	職員4名第6期生として採用する。
6月28日	精華町火災予防条例施行規則を全面改正する。
8月17日	精華町消防本部及び消防署の設置等に関する条例の一部を改正し、精華町大字北稻八間小字寄田長31番地に消防本部・署、消防団本部を移転する。
8月22日	第3回京都府消防協会相楽支部操法大会(小型動力ポンプの部)で優勝する。
昭和52年 4月 1日	職員2名第7期生として採用する。
昭和53年 1月 1日	精華町消防職員服務規程を制定する。
3月27日	精華町消防長危険物専決規程を制定する。
4月 1日	精華町危険物規制規則を制定する。
7月28日	補給装置付防火水槽の設置及び管理に関する条例を制定する。
8月 1日	精華町消防団員の服制規則を制定する。
8月20日	第4回京都府消防協会相楽支部操法大会(小型動力ポンプの部)で優勝する。
昭和54年 2月10日	昭和53年度優良消防団として、日本消防協会から表彰旗を授与される。
11月26日	あき地の防火管理に関する指導要綱を制定する。
昭和55年 3月 5日	昭和54年度優良消防本部・消防団として、消防庁長官から竿頭綬を授与される。
8月 4日	精華町水防協議会条例を制定する。
8月10日	第5回京都府消防協会相楽支部操法大会(小型動力ポンプの部)で優勝する。
8月22日	第6回京都府消防協会操法大会(小型動力ポンプの部)で準優勝する。
昭和56年 4月 1日	職員2名第8期生として採用する。
10月10日	久保正一氏、消防団長に就任する。
昭和57年 8月31日	第7回京都府消防協会操法大会(小型動力ポンプの部)で優勝する。
10月11日	第8回日本消防協会操法大会(小型動力ポンプの部)に出場する。
昭和59年 4月 1日	杉嶋愛治氏、消防団長に就任する。
昭和60年10月23日	京都府知事表彰旗を授与される。
昭和62年 4月 1日	奥 巖氏、消防長に就任する。 職員2名第9期生として採用する。
10月 1日	救助隊(兼務)を発足する。
昭和63年 4月 1日	職員2名第10期生として採用する。
平成 2年 4月 1日	職員2名第11期生として採用する。
平成 3年 4月 1日	職員1名第12期生として採用する。

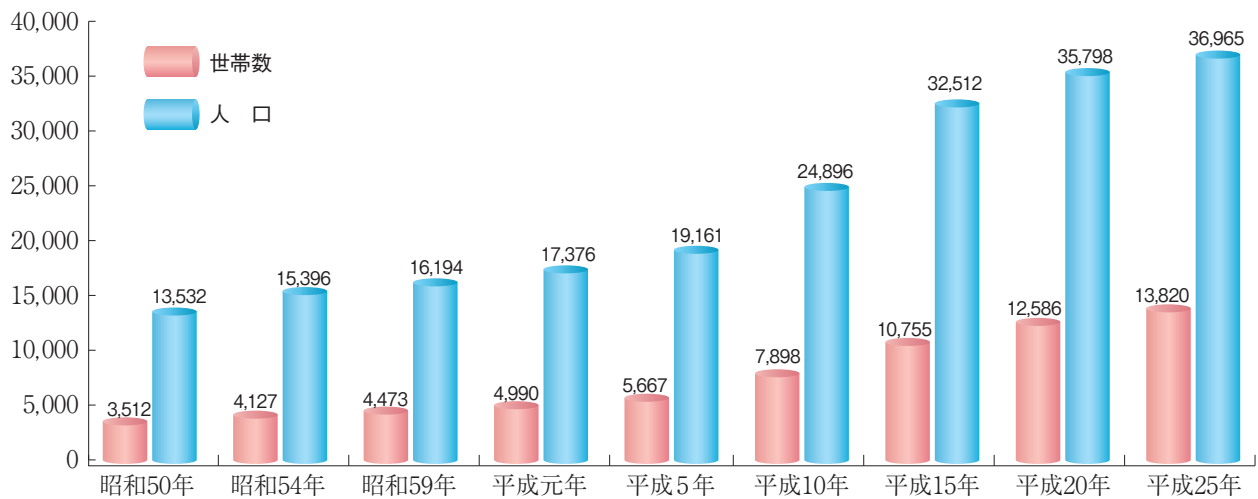
平成 4年 8月31日 11月17日	第12回京都府消防協会操法大会（小型動力ポンプの部）で入賞する。 平成4年度消防庁長官優良消防機関表彰に伴う表彰調査受閲。
平成 5年 3月 3日	平成4年度消防庁長官優良消防機関表彰（表彰旗）を受ける。
平成 7年 4月 1日 4月11日	高規格救急自動車及び救急救命士の運用を開始する。 職員2名第13期生として採用する。 精華町消防本部救急救命士運用要領の制定。
平成 8年 4月 1日 4月 1日	久村勝氏、消防長に就任する。 高田尚彦氏、消防団長に就任する。
平成 9年 4月 1日	職員2名第14期生として採用する。
平成11年 1月28日 4月 1日	京都府知事特別表彰旗を授与される。 職員1名第15期生として採用する。
平成12年 4月 1日 12月 1日	精華町消防手数料条例を制定する。 職員1名第16期生として採用する。 精華町消防団女性部10名で発足する。
平成13年 4月 1日	浅田清隆氏、消防長に就任する。
平成14年 1月 1日 7月28日	京都府消防協会長表彰旗を授与される。 第14回京都府消防協会相楽支部操法大会（小型動力ポンプの部）で準優勝する。
平成15年 4月 1日 7月27日	職員1名第17期生として採用する。 第15回京都府消防協会相楽支部操法大会（小型動力ポンプの部）で準優勝する。
平成16年 4月 1日 7月25日	川嶋一生氏、消防長に就任する。 清水誠氏、消防団長に就任する。 職員3名第18期生として採用する。 第16回京都府消防協会相楽支部操法大会（小型動力ポンプの部）で準優勝する。
平成17年 4月 1日	職員4名第19期生として採用する。
平成18年 4月 1日 7月23日 8月 6日	職員2名第20期生として採用する。 第17回京都府消防協会相楽支部操法大会（小型動力ポンプの部）で準優勝する。 第19回京都府消防操法大会（小型動力ポンプの部）で奨励賞を受賞する。
平成19年 4月 1日	職員1名第21期生として採用する。
平成20年 4月 1日 7月 7日 8月26日	杉原孝司氏、消防長に就任する。 清水誠消防団長、京都府消防協会相楽支部長に就任する。 精華町職員定数条例の一部を改正し、消防本部・署の定員を53人に改める。 職員6名第22期生として採用する。 精華町消防団操法大会優勝旗更新する。 財団法人日本宝くじ協会から消火・通報訓練指導車を寄贈される。
平成21年 4月 1日 9月 1日	職員4名第23期生として採用する。 精華町消防本部予防技術資格者の認定等に関する規程を制定する。

平成22年 2月18日	地域活性化・経済危機対策臨時交付金により救助ボート購入する。
3月 7日	清水誠団長消防庁長官功労章授章される。
4月 1日	吉田一雄氏、消防団長に就任する。 職員2名第24期生として採用する。
7月25日	第19回京都府消防協会相楽支部操法大会（小型動力ポンプの部）で準優勝する。
8月 1日	第21回京都府消防操法大会（小型動力ポンプの部）で4位入賞する。
平成23年 4月 1日	栗田省吾氏、消防長に就任する。 職員3名第25期生として採用する。
平成24年 2月23日	消防団が財団法人日本消防協会から特別表彰「まとい」を授与される。
3月20日	特別表彰まとい受章記念式典・パレードを実施する。
4月 1日	岩井三郎氏、消防団長に就任する。 職員2名第26期生として採用する。（内1名女性）
7月29日	第20回京都府消防協会相楽支部操法大会（小型動力ポンプの部）で優勝する。
8月 1日	第22回京都府消防操法大会（小型動力ポンプの部）で優勝する。
12月27日	消防団旗新調する。
平成25年 4月 1日	職員2名第27期生として採用する。
平成26年 4月 1日	大矢消防長 就任する。 中西光泰氏、消防団長に就任する。 職員2名第28期生として採用する。



新庁舎完成予想図

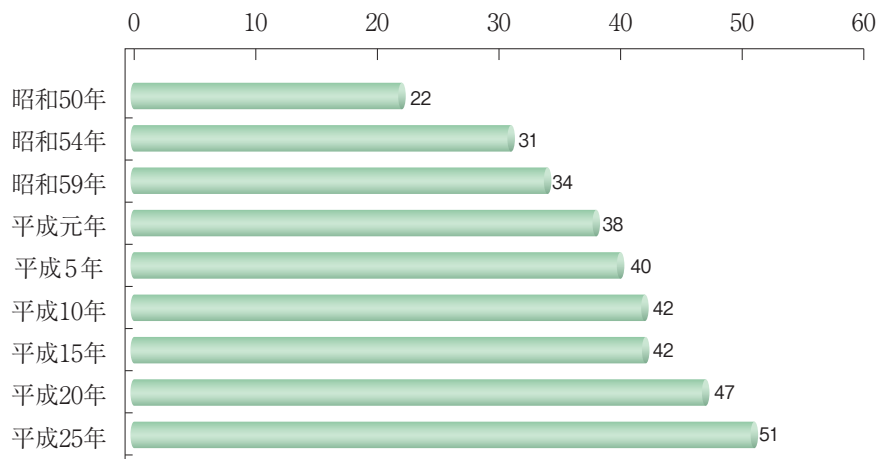
人口推移



	昭和50年	昭和54年	昭和59年	平成元年	平成5年	平成10年	平成15年	平成20年	平成25年
世帯数	3,512	4,127	4,473	4,990	5,667	7,898	10,755	12,586	13,820
人口	13,532	15,396	16,194	17,376	19,161	24,896	32,512	35,798	36,965

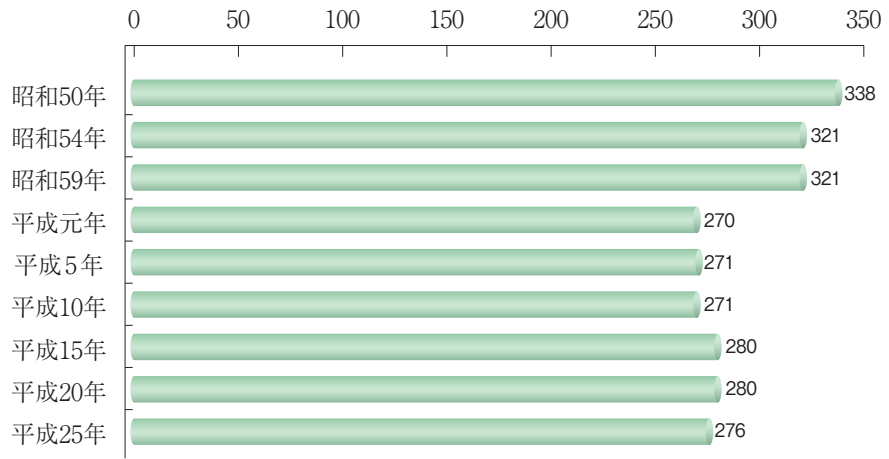
消防職員数の推移

	職員数
昭和50年	22
昭和54年	31
昭和59年	34
平成元年	38
平成5年	40
平成10年	42
平成15年	42
平成20年	47
平成25年	51

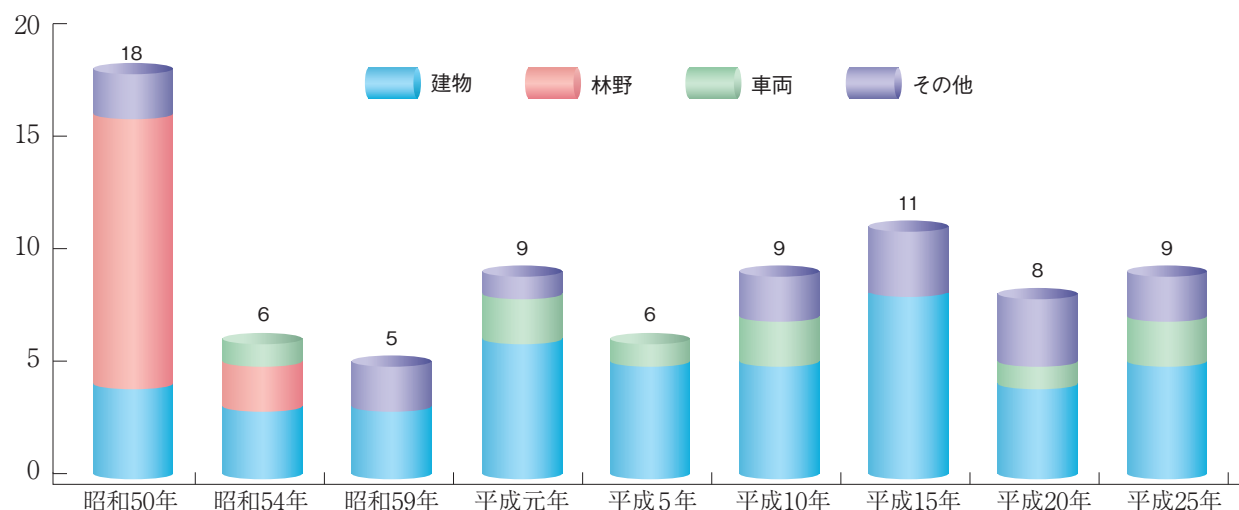


消防団員数の推移

	団員数
昭和50年	338
昭和54年	321
昭和59年	321
平成元年	270
平成5年	271
平成10年	271
平成15年	280
平成20年	280
平成25年	276

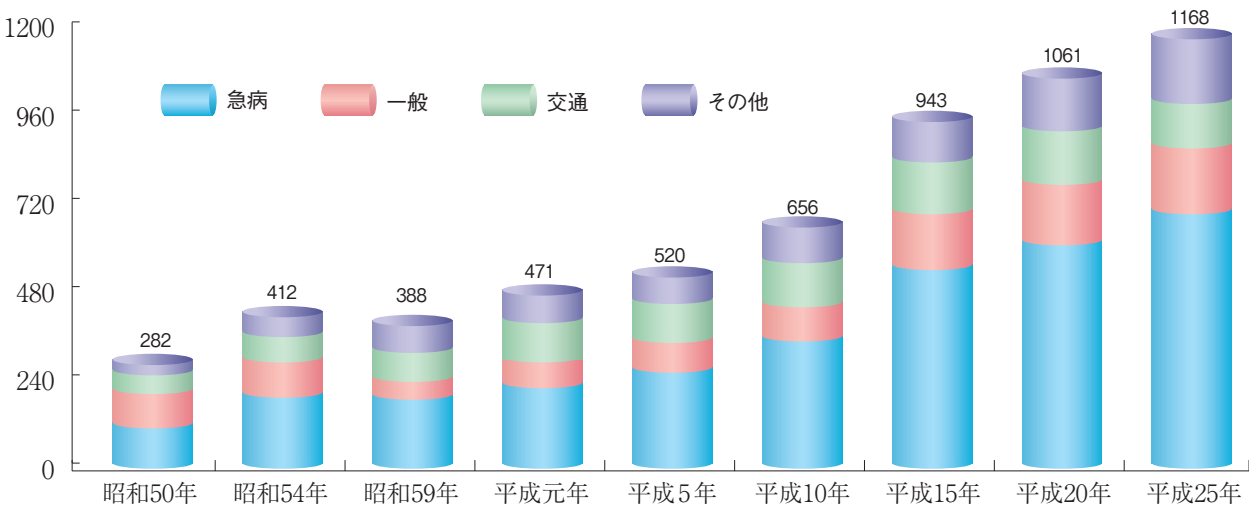


火災統計推移



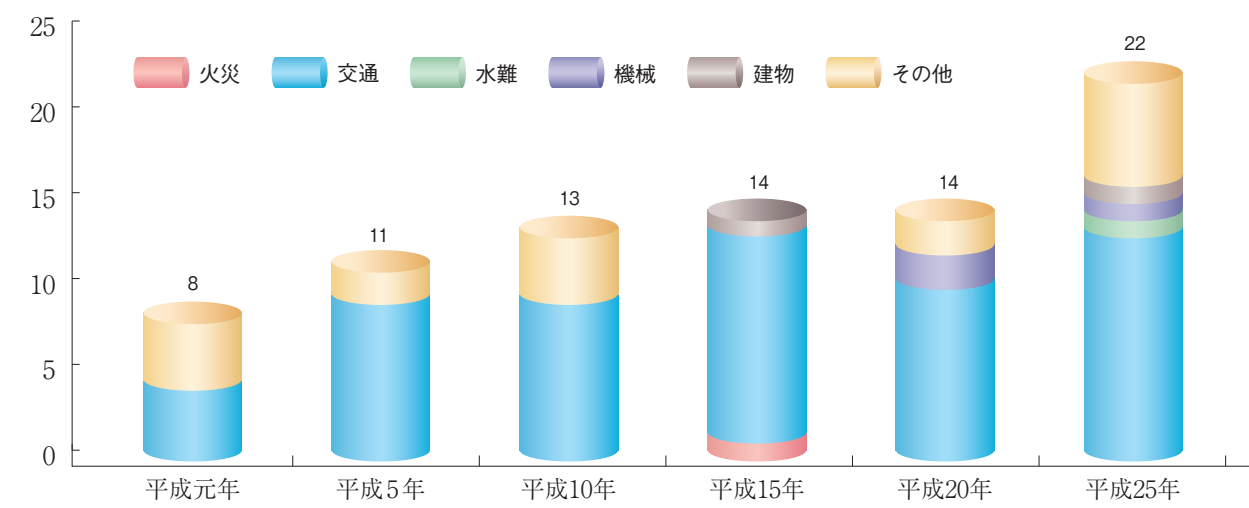
		昭和50年	昭和54年	昭和59年	平成元年	平成5年	平成10年	平成15年	平成20年	平成25年
種別	建物	4	3	3	6	5	5	8	4	5
	林野	12	2							
	車両		1		2	1	2		1	2
	その他	2		2	1		2	3	3	2
焼損	全焼	2		2	3	3	1	2		
	半焼		4			1				1
	部分焼き	4	2	2	3	4	4	6		2
	ぼや								4	2
り災世帯	全損	2			2	2		1		
	半損		4							1
	小損	4	2	1	3	1	2	4	4	3
り災人員		7	26	14	27	15	4	20	5	2
焼損面積	建物 (㎡)	44.4	120	66.5	446	501	33.5	156	2	14
	林野 (a)	144	4							
	車両 (台)		2		2	5	2		1	2
	その他 (㎡)	53		13	200			70	6,500	1,025
死傷者	死者					1	1	1	1	
	負傷者	2	4		7	1	2	3		
損害額 (千円)	建物	305	9,636	850	39,815	71,785	320	10,475	58	1,440
	収容物	20	1,960	971	2,808	6,822	288	2,294	15	129
	林野									
	車両		18		3,836	768	19		8	92
	その他	304				105		925	311	31
合計		629	11,614	1,821	46,459	79,480	627	13,694	392	1,692

救急出動件数推移



	昭和50年	昭和54年	昭和59年	平成元年	平成5年	平成10年	平成15年	平成20年	平成25年
急 病	111	193	183	219	261	344	541	602	692
一 般	92	96	53	60	81	95	150	170	179
交 通	51	69	79	117	106	120	142	142	121
その他	28	54	73	75	72	97	110	147	176
合計	282	412	388	471	520	656	943	1,061	1,168

救助統計推移



	平成元年	平成5年	平成10年	平成15年	平成20年	平成25年
火 災				1		
交 通	4	9	9	12	10	13
水 難						1
機 械					2	1
建 物				1		1
そ の 他	4	2	4		2	6
合 計	8	11	13	14	14	22

災害事例

●近畿日本鉄道衝突事故

昭和50年4月17日15時32分頃、精華町大字菅井小字西ノ辻、近畿日本鉄道新祝園5号踏切において乗用車と近畿日本鉄道の急行電車4両編成が衝突した。

乗用車が大破し急行電車が脱線、転覆した。
66名の傷病者を医療機関に搬送した。

出動車両 10台

出動人員 272名

(車両及び人員ともに役場職員、消防団
相楽中部消防組合消防本部、警察含む)



●京都府南部豪雨

平成24年8月14日未明より前線の影響で西日本から東北地方の広い範囲で大気の状態が不安定となり、局地的に非常に激しい豪雨が発生した。精華町で時間雨量最大107mmの記録的豪雨を観測し、床上浸水15棟、床下浸水53棟の被害が発生した。宇治市では時間雨量最大78mmを観測し、増水した志津川に住宅が流され2名が行方不明となった。また、弥陀次郎川の破堤により広範囲にわたり民家が床上、床下浸水した。



●山林火災

平成23年4月3日15時頃、精華町大字乾谷小字合力地内にて出火、焼損面積は約2ha、雑木が燃えたため損害額は発生しておらず、死傷者も出ていない。5日の9時50分頃に鎮火した。

出動車両 12台

出動人員 75人

(人員にあつては消防団含む)

火災の予防と啓発

火災から尊い命や大切な財産を守るためには町民ひとり一人の防火意識を高め、常に注意を払うことが肝要であるため、各種イベント等において、火災の予防と普及啓発活動を行っており、学校・事業所・自治会・自主防災組織においては消防訓練等を行っています。

主な火災予防事業

実施期間等	事業
1月上旬 1月26日	消防出初式 文化財予防デー
3月1日～7日 3月	春季火災予防運動 幼年消防クラブ勉強会
5月	幼年消防クラブ勉強会（地震体験）
6月第2週目	危険物安全週間
7月 7月	幼年消防クラブ花火指導 婦人防火クラブ花火指導
7月・8月	住宅用火災警報器設置促進期間
8月	精華町防災訓練
10月	精華町子供祭り（消防士体験等）
11月9日～15日 11月 11月	秋季火災予防運動 幼年消防クラブ防火パレード 危険物車両街頭検査
12月20日～31日	年末火災予防運動

防火指導実施状況

	実 施 年								
項 目	昭和50年	昭和54年	昭和59年	平成元年	平成5年	平成10年	平成15年	平成20年	平成25年
防火映画会	8	12	11	6	6	12	10	13	19
消火器取扱説明会	9	4	13	6	13	7	20	18	28
消防器具取扱説明会	1	3	1	13	2	4	13	10	21
各種研修会	6			5	6	6	11	16	14
展示会					6			1	
焚き火・花火取扱指導	6	34	43	40	10	10	12	13	11
各種見学会	4	3	2	2	2	2	2	13	18
消防訓練	7	4	17	8	3	12	7	2	14
地震体験指導会				5	5	8	8	18	14
避難訓練(※)	2	1	19	29	10	5	16	70	63
防火・防災のつどい		9	1	1			1	5	13
その他	7	36	36	6	27	1	56	55	16

(※) 消防法で定められた防火管理者を置かなければならない事業所が行う避難消火訓練をいう。

防火対象物の推移

			対 象 物 数								
区 分			昭和50年	昭和54年	昭和59年	平成元年	平成5年	平成10年	平成15年	平成20年	平成25年
1	イ	映画館等	1								
	ロ	集会場等	10	2	26	21	26	32	42	47	42
2	イ	キャバレー等									
	ロ	遊戯場等									
	ハ	風俗営業等									
	ニ	カラオケボックス等									
3	イ	料理店等		1	2	3	3	3	4	3	2
	ロ	飲食店	1	1	3	2	2	2	5	6	5
4		マーケット等	1	1	3	5	7	11	20	19	15
5	イ	旅館等									
	ロ	共同住宅等	15	24		32	75	148	215	245	242
6	イ	病院等	2	2		2	2	4	6	10	10
	ロ	重度の福祉施設等	3	6	4	4	7	8	10	17	2
	ハ	保育所、軽度の福祉施設等	2	4	3	7	6	6	8	14	9
	ニ	幼稚園等									10
7		学校	4	4	6	16	19	23	28	38	28
8		図書館等				2	2	1	1	1	1
9	イ	特殊浴場									
	ロ	イ以外の浴場	1	1		1	1	1	1	1	
10		停車場等		2				1	1	1	2
11		神社・寺院等	5	17		1	1	4	5	10	16
12	イ	作業場等	9		1	25	24	32	31	38	42
	ロ	テレビスタジオ									
13	イ	駐車場等				1	2	7	6	7	5
	ロ	航空機格納庫等									
14		倉庫	4	4		48	50	53	51	58	51
15		事務所等	6	10	7	26	51	81	93	118	120
16	イ	特定複合用途防火対象物	4	5	12	20	39	39	54	53	54
	ロ	イ以外の複合用途防火対象物			1	10	19	19	19	23	21
17		文化財等	1	4		1	1	1	1	1	1
合 計			69	88	68	227	337	476	601	710	678

(※) 防火対象物：消防法により、火災予防行政の主たる対象となる建築物を「防火対象物」と定義し、そのうち消防法施行令別表第1（表1）に掲げる防火対象物については、その用途や規模等に応じて、火災予防のため防火管理者の選任や消防用設備等の設置などを義務付けています。

(※) 防火対象物のうち（一）項から（十六）項口までに掲げる防火対象物の延べ面積150㎡以上のもの及び（十七）項の防火対象物。

消防用設備等

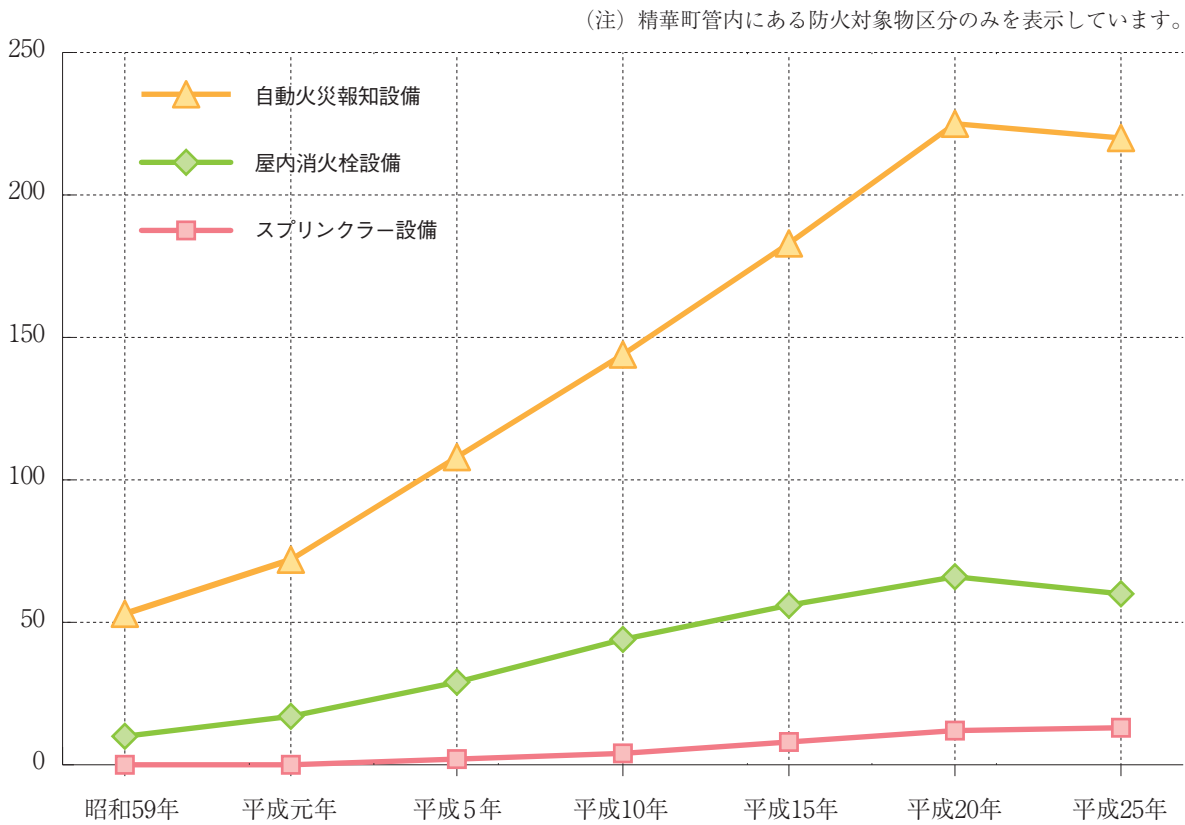
消防用設備等は、火災の発生を早期に人に知らせ、避難を行わせるとともに火災初期の段階で初期消火を行い、火災による被害の軽減を図る上では大切な設備です。

消防用設備等の中でも、屋内消火栓設備、スプリンクラー設備及び自動火災報知設備については火災の発見及び初期消火に非常に有効な設備です。

消防用設備等の設置対象物数

	昭和50年	昭和54年	昭和59年	平成元年	平成5年	平成10年	平成15年	平成20年	平成25年
屋内消火栓設備	*	*	10	17	29	44	56	66	60
スプリンクラー設備	*	*			2	4	8	12	13
自動火災報知設備	*	*	53	72	108	144	183	225	220

昭和57年から統計を取り始める。



危険物施設

消防法では、火災発生危険性が大きく、火災が発生した場合にその拡大危険が大きく、火災の際の消火が困難であるなどの性状を有する物品を「危険物」として指定し、危険物の貯蔵・取扱い及び運搬において規制しています。

危険物施設の推移

区 分		昭和50年	昭和54年	昭和59年	平成元年	平成5年	平成10年	平成15年	平成20年	平成25年
製 造 所			1	1	1	1	1	1	1	1
貯蔵所	屋内貯蔵所	1	4	4	4	3	2	3	4	6
	屋外タンク貯蔵所	1	2	2	2	2	1	2	2	2
	屋内タンク貯蔵所							1	1	1
	地下タンク貯蔵所	1	5	5	10	13	16	18	20	21
	簡易タンク貯蔵所		1	1	1	1	1	1		
	移動タンク貯蔵所	3	8	8	8	4	7	11	9	6
	屋外貯蔵所		1	1	1	1	1			
取扱所	給油取扱所	11	12	12	13	14	19	14	12	8
	販売取扱所									
	移送取扱所									
	一般取扱所	11	10	10	4	4	6	6	5	7

危険物施設の区分

区 分		内 容
製造所		危険物を製造する施設（製油所等）
貯蔵所	屋内貯蔵所	容器入りの危険物を建築物内で貯蔵
	屋外タンク貯蔵所	屋外にあるタンクで危険物を貯蔵
	屋内タンク貯蔵所	屋内にあるタンクで危険物を貯蔵
	地下タンク貯蔵所	地盤面下にあるタンクで危険物を貯蔵
	簡易タンク貯蔵所	600リットル以下の小規模なタンクで危険物を貯蔵
	移動タンク貯蔵所	車両に固定されたタンクで危険物を貯蔵（タンクローリー等）
	屋外貯蔵所	屋外の場所で一定の危険物を容器等で貯蔵
取扱所	給油取扱所	自動車等に給油する取扱所（ガソリンスタンド等）
	販売取扱所	容器に入ったまま危険物を売る販売店
	移送取扱所	配管で危険物を移送する取扱所（パイプライン等）
	一般取扱所	上記3つの取扱所以外の取扱所（自家発電設備等）

消 防 年 報

精華町管内の消防状況及び消防業務並びに平成25年中各種統計を収録したものです。

精華町単独防火標語

「その油断 その横着が 火事を出す」

スローガン

“安全で安心して暮らせる災害に強いまちづくり”

重 要 施 策

- 1 住宅防火対策の推進
- 2 消防力の整備充実
- 3 消防団の充実強化
- 4 情報管理システムの確立
- 5 救急業務の充実
- 6 防火対象物等の安全対策の推進



指導車



水防車



水防資器材搬送車

総務編

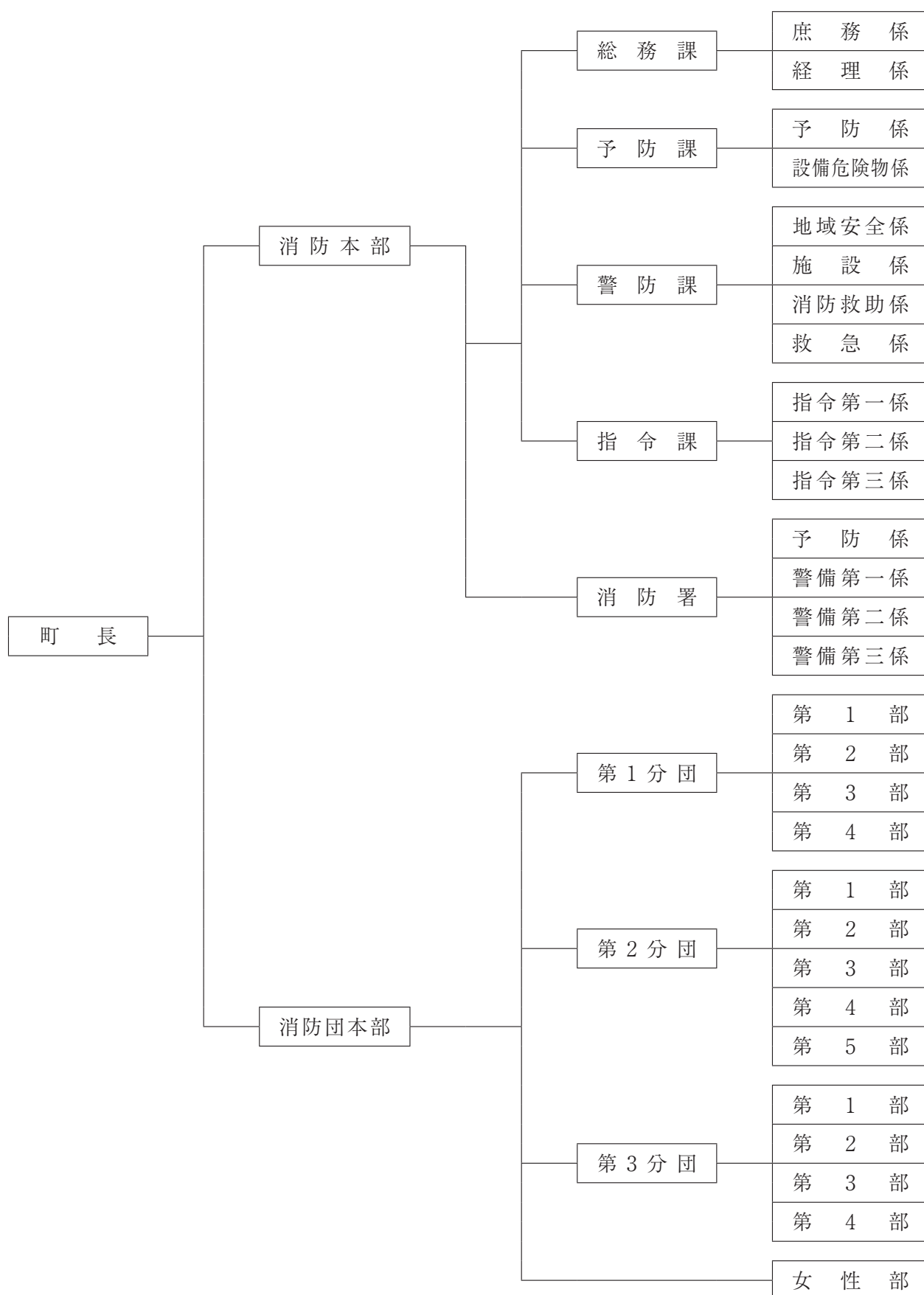


指揮車



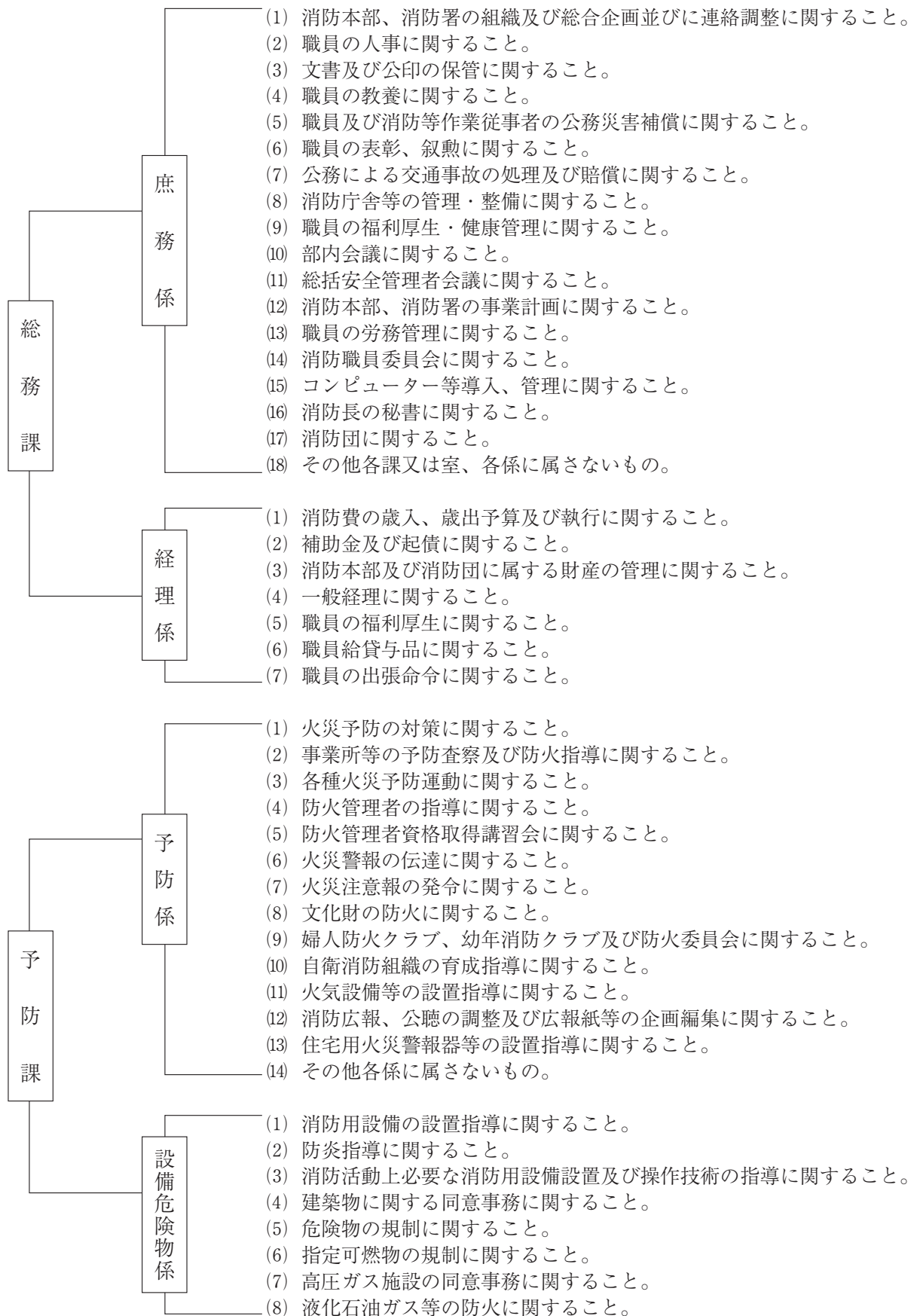
指令車

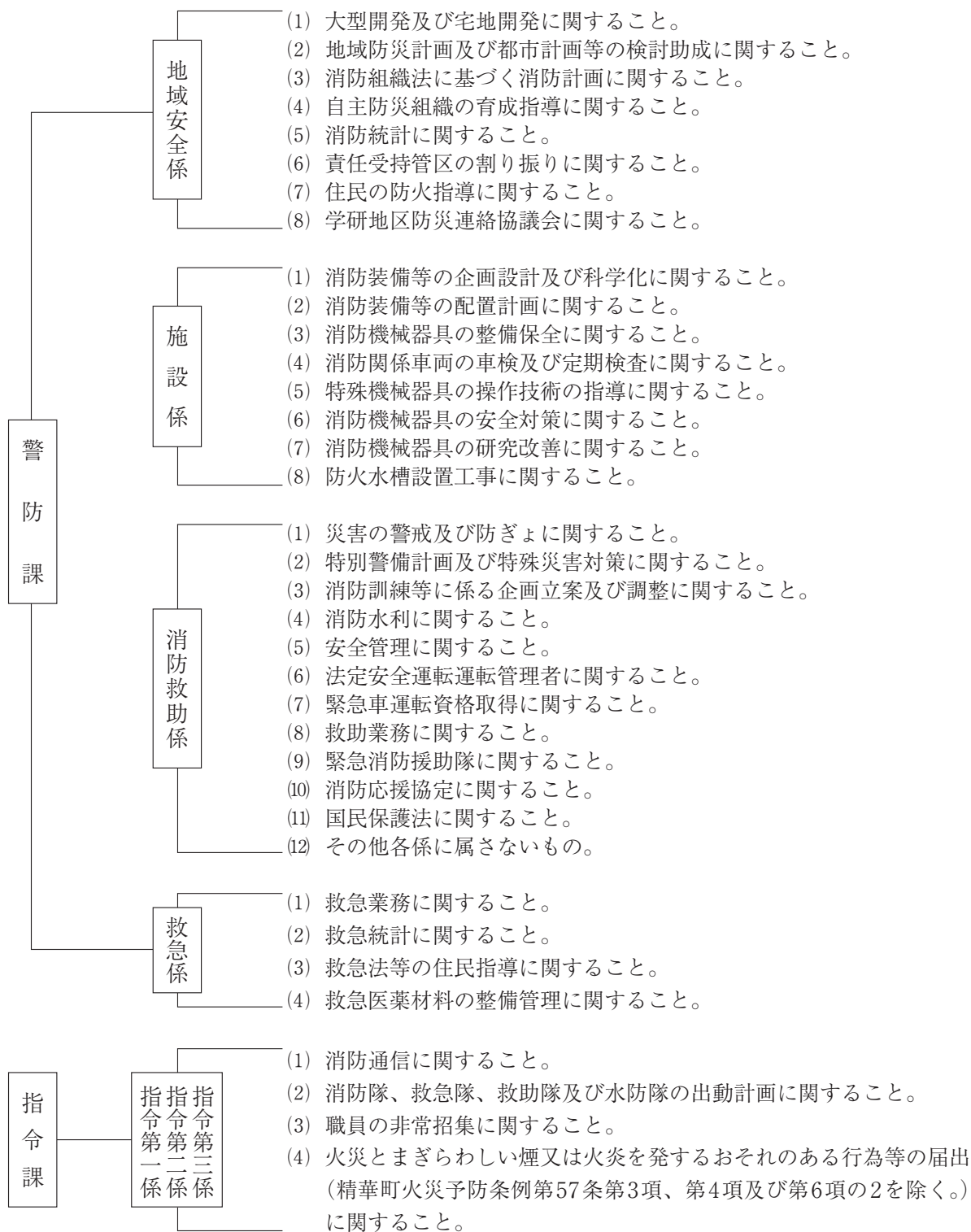
1 消防の組織及び機構



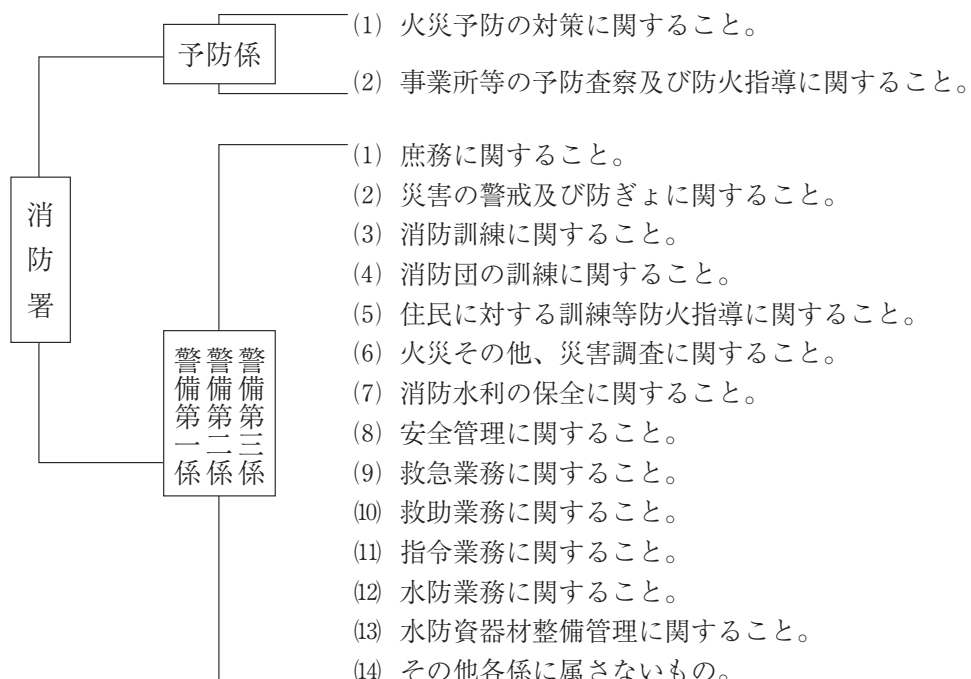
2 消防本部・署事務分掌

(1) 消防本部事務分掌





(2) 消防署事務分掌



3 消防予算の内訳 (当初予算)

(単位：千円)

項目 \ 年度	22	23	24	25	26
常 備 消 防 費	395,401	509,027	396,509	395,800	395,500
非 常 備 消 防 費	34,336	38,647	32,928	30,900	30,000
消 防 施 設 費	2,429	5,395	23,929	34,469	493,352
水 防 費	285	286	286	286	286
災 害 対 策 費	11,169	6,136	7,291	7,261	8,296
合 計	443,620	559,491	460,943	468,716	927,434

4 消防職員の状況

平成26年4月1日現在

所属等			階級	消防 司令長	消防 司令	消防 司令補	消防 士長	消防 副士長	消防士	その他 職員	合計
消防 本部	消防長			1							1
	消防次長										
	総務課	課長				1					1
		課長補佐・係長等				1	2				3
		主査等						2	2	2	6
	予防課	課長				1					1
		課長補佐・係長等					2				2
		主査等					2	2	1		5
	警防課	課長				1					1
		課長補佐・係長等				1	4				5
		主査等						3	6		9
	指令課	課長				(1)					(1)
		課長補佐・係長等					2				2
		主査等					2				2
参事											
小計				1	5 (1)	14	7	9	2		38 (1)
消防 署	消防署長				1						1
	署長補佐				3						3
	予防係	係長等					(1)				(1)
		主査等					(1)	(1)			(2)
	警備係	係長等									
		主査等					1	2	4	2	9
小計					4	1 (2)	2	4 (1)	2		13 (3)
合計				1	9 (1)	15 (2)	9	13 (1)	4		51 (4)
定員				53							

注. () 内は、事務取扱いを示す。

5 消防職員の年齢状況

平成26年4月1日現在

年齢	階級	消防司令長	消防司令	消防司令補	消防士長	消防副士長	消防士	その他職員	計
25歳未満						2	2		4
25歳～29歳					5	11	2		18
30歳～34歳				2	4				6
35歳～39歳				6					6
40歳～44歳			2	3					5
45歳～49歳			1	2					3
50歳～54歳			3						3
55歳以上		1	3	2					6
合計		1	9	15	9	13	4		51

消防団編



団指揮広報車



軽ダンプ

1 消防団員の状況

(1) 消防団員定数と実員及び配置状況

平成26年4月1日現在

区分\階級別	団長	副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員	合計
定 員	1	2	3	3	14	41	217	281
実 員	1	2	3	3	14	41	213	277
団 本 部	1	2	3	3				9
第 1 分 団			(1)	(1)	4	12	64	80 (2)
第 2 分 団			(1)	(1)	5	15	81	101 (2)
第 3 分 団			(1)	(1)	4	12	63	79 (2)
女 性 部					1	2	5	8
合 計	1	2	3 (3)	3 (3)	14	41	213	277 (6)

注：() 内は、団本部員と兼務を示す。

(2) 消防団員年齢状況

平成26年4月1日現在

年齢別\階級別	団長	副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員	合計
20歳未満							3	3
20～25歳未満						2	22	24
25～30歳未満					2	8	20	30
30～35歳未満					5	7	38	50
35～40歳未満				2	2	13	55	72
40～45歳未満				1	2	6	53	62
45～50歳未満			1		3	4	21	29
50～55歳未満			2			1	1	4
55歳以上	1	2						3
合 計	1	2	3	3	14	41	213	277

2 消防団表彰歴

(1) 消防庁長官表彰

昭和55年3月5日に竿頭綬を授与される。

平成5年3月3日に表彰旗を授与される。

(2) 日本消防協会長表彰

昭和54年2月10日に表彰旗を授与される。

平成24年2月23日に第64回日本消防協会定例表彰「特別表彰まとい」授章される。

(3) 京都府知事表彰

昭和43年10月24日に竿頭綬を授与される。

昭和46年10月21日に竿頭綬を授与される。

昭和60年10月23日に表彰旗を授与される。

平成11年1月28日に特別表彰旗を授与される。

(4) 京都府消防協会長表彰

昭和47年12月1日に表彰旗を授与される。

平成14年1月1日に表彰旗を授与される。

(5) 操法大会関係（小型ポンプの部）

昭和51年8月22日に第3回京都府消防協会相楽支部操法大会優勝。

昭和53年8月20日に第4回京都府消防協会相楽支部操法大会優勝。

昭和55年8月10日に第5回京都府消防協会相楽支部操法大会優勝。

昭和55年8月22日に第6回京都府消防協会操法大会準優勝。

昭和57年8月31日に第7回京都府消防協会操法大会優勝。

昭和57年10月11日に第8回日本消防協会操法大会出場。

平成4年8月31日に第12回京都府消防協会操法大会5位入賞。

平成14年7月28日に第14回京都府消防協会相楽支部操法大会準優勝。

平成15年7月27日に第15回京都府消防協会相楽支部操法大会準優勝。

平成16年7月25日に第16回京都府消防協会相楽支部操法大会準優勝。

平成18年7月23日に第17回京都府消防協会相楽支部操法大会準優勝。

平成18年8月6日に第19回京都府消防操法大会奨励賞受賞。

平成22年7月25日に第19回京都府消防協会相楽支部操法大会準優勝。

平成22年8月1日に第21回京都府消防操法大会4位入賞。

平成24年7月29日に第20回京都府消防協会相楽支部操法大会優勝。

平成24年8月5日に第22回京都府消防操法大会優勝。

予 防 編



防火広報車



査察車



婦防積載車

1 消防用設備等設置状況

平成26年3月31日現在

防火対象物の区分			設置	屋内消火栓設備	スプリンクラー設備	水噴霧消火設備等	動力消防ポンプ設備	自動火災報知設備	屋外消火栓設備	漏電火災警報器	非常警報設備	避難器具	誘導灯	消防用水	排煙設備	連結散水設備	連結送水管	非常コンセント設備
1	イ	映画館等																
	ロ	集会場等					7			32	3	38						
2	イ	キャバレー等																
	ロ	遊戯場等																
	ハ	風俗営業等																
	ニ	カラオケボックス等																
3	イ	料理店等					2		2			2						
	ロ	飲食店					2			4	1	6						
4		マーケット等	2	2	2		10			7		16	1	1	1	1		
5	イ	旅館等																
	ロ	共同住宅等	4		4		28		16	13	13	1				5	1	
6	イ	病院等	1	1			6			5	2	13	1			1		
	ロ	重度の福祉施設等		3			8			2	2	7						
	ハ	保育所、軽度の福祉施設等		1			8			2	5	8						
	ニ	幼稚園等	1				8			2	2	11						
7		学校	15				26			14	3	7						
8		図書館等	1	1	1		1			1		1	1			1	1	
9	イ	特殊浴場																
	ロ	イ以外の浴場										1						
10		停車場等					2					1						
11		神社・寺院等																
12	イ	作業場等	14			5	23	1	1	1		9	2					
	ロ	テレビスタジオ																
13	イ	駐車場等			5		3					2						
	ロ	航空機格納庫等																
14		倉庫	4				11					4						
15		事務所等	12	2	6		47	5		27	7	36	4			5	1	
16	イ	特定複合用途防火対象物	4	3	3		25			19	8	48	1	3		3		
	ロ	イ以外の複合用途防火対象物	2		1		2			4	4	1						
17		文化財等					1											
合 計			60	13	22	5	220	6	19	133	50	212	10	4	1	16	3	

注：150㎡以上の防火対象物数（棟数）を表す

2 製造所等別の許可、完成検査及び廃止届等の状況

平成26年3月31日現在

製造所等の別 区分			製 造 所	貯 蔵 所							取 扱 所						合 計	
				屋 内 貯 蔵 所	屋 外 タンク貯蔵所	屋内タンク貯蔵所	地下タンク貯蔵所	簡易タンク貯蔵所	移動タンク貯蔵所	屋外貯蔵所	小 計	給 油 取 扱 所	第1種販売取扱所	第2種販売取扱所	移送取扱所	一般取扱所		小 計
許	設 置			1			1				2					1	1	3
	変 更						2				2							2
可	設置場の 変更	他許可行政 庁に転出																
		他許可行政 庁から転入																
完成検査	設 置			1							1					1	1	2
	変 更						1				1							1
	他 許 可 行 政 庁 か ら 転 入																	
廃 止 届 等												1					1	1
完成検査前に設置許可の取り消し処分																		

3 危険物施設の仮使用、危険物の仮貯蔵及び仮取扱の状況

平成26年3月31日現在

仮 貯 蔵	仮 取 扱	仮 使 用														合 計
		貯 蔵 所									取 扱 所					
		製 造 所	屋 内 貯 蔵 所	屋 外 タンク 貯蔵所	屋 内 タンク 貯蔵所	地下タンク 貯蔵所	簡易タンク 貯蔵所	移動タンク 貯蔵所	屋 外 貯 蔵 所	小 計	給 油 取 扱 所	第1種販売 取扱所	第2種販売 取扱所	移 送 取 扱 所	一 般 取 扱 所	
					1				1							1

4 危険物施設状況

平成26年3月31日現在

施設別 区 分			製 造 所	貯 蔵 所							取 扱 所						合 計	
				屋 内	屋 外 タン ク	屋 内 タン ク	地 下 タン ク	簡 易 タン ク	移 動 タン ク	屋 外	小 計	給 油	第 1 種 販 売	第 2 種 販 売	移 送	一 般		小 計
設置許可施設数			1	6	2	1	21		6		36	8				7	15	52
数 量 の 倍 数 別	5倍以下			4	1	1	9		5		20					3	3	23
	5倍を超え10倍以下		1	1			6				7	1				2	3	11
	10倍を超え50倍以下			1	1		6				8	1				2	3	11
	50倍を超え100倍以下								1		1	1					1	2
	100倍を超え150倍以下											2					2	2
	150倍を超え200倍以下																	
	200倍を超え1,000倍以下											3					3	3
	1,000倍を超え5,000倍以下																	
	5,000倍を超え10,000倍以下																	
	10,000倍を超えるもの																	
合 計			1	6	2	1	21		6		36	8				7	15	52
類 別	単	第 1 類																
		第 2 類																
		第 3 類																
	独	第 4 類	1	5	2	1	21		6		35	8				7	15	52
		第 5 類																
		第 6 類																
	混 在																	
合 計			1	5	2	1	21		6		35	8				7	15	52

5 防火指導状況

平成25年中

項 目	回 数			参 加 人 数			
		自主防 災組織	婦人防火 クラブ		成 人	小・中学 生	未就学児 〔幼年消防 クラブ含む〕
防 火 映 画 会	19	1	3	3,141	433	112	2,596
消火器取扱説明会	28	8		1,855	918	498	439
消防器具取扱説明会	21	5		1,129	735	392	2
各 種 研 修 会	14	10	4	365	352	13	
展 示 会							
花 火 取 扱 指 導	10		3	1,306	215	72	1,019
各 種 見 学 会	18			2,165	1341	824	
総 合 訓 練	14	1		2,830	788	1,099	943
地震体験指導会	14	4		1,976	346	155	1,475
避難訓練(※)	63			8,974	2,906	2,278	3,790
防火・防災のつどい	13	11	1	570	540	30	
そ の 他	16	1	5	612	466	47	99
合 計	230	41	16	24,923	9,040	5,520	10,363

(※) 消防法で定められた防火管理者を置かなければならない事業所が行う避難消火訓練をいう。

6 自主防災組織等状況

(1) 自主防災組織

住民の方々が「自分たちの地域は自分で守ろう」という意識をもっていただくことにより、コミュニティのなかで、家庭内の防災の心得、また地域の安全など防災について幅広く話し合いをしてもらい、住民と行政との連携と積極的な協力関係に基づき、災害に強いまちづくりを図ることを目的としています。

平成26年4月1日現在

名 称	結 成 年 月 日	会 員 世 帯 数
光 台 七 丁 目 防災会	平成 5 年 8 月 1 日	586 世 帯
桜 が 丘 四 丁 目 防災会	平成 6 年 10 月 1 日	528 世 帯
桜 が 丘 三 丁 目 防災会	平成 7 年 4 月 1 日	530 世 帯
滝 ノ 鼻 防災会	平成 7 年 11 月 1 日	333 世 帯
光 台 六 丁 目 防災会	平成 8 年 8 月 4 日	572 世 帯
光 台 四 丁 目 自主防災会	平成 9 年 9 月 1 日	574 世 帯
谷 自主防災会	平成 10 年 3 月 1 日	119 世 帯
光 台 五 丁 目 自主防災会	平成 10 年 4 月 19 日	294 世 帯
光 台 八 丁 目 自主防災会	平成 10 年 6 月 1 日	512 世 帯
桜 が 丘 二 丁 目 自主防災会	平成 11 年 8 月 1 日	351 世 帯
里 自主防災会	平成 13 年 1 月 1 日	113 世 帯
中 久 保 田 自主防災会	平成 14 年 10 月 1 日	177 世 帯
乾 谷 自主防災会	平成 15 年 10 月 1 日	159 世 帯
精 華 台 三 丁 目 自主防災会	平成 16 年 4 月 1 日	413 世 帯
精 華 台 四 丁 目 自主防災会	平成 16 年 4 月 1 日	496 世 帯
精 華 台 一 丁 目 自主防災会	平成 17 年 3 月 1 日	366 世 帯
中 自主防災会	平成 17 年 4 月 1 日	175 世 帯
山 田 自主防災会	平成 19 年 4 月 1 日	251 世 帯
菱 田 自主防災会	平成 19 年 8 月 26 日	597 世 帯
僧 坊 自主防災会	平成 21 年 1 月 1 日	673 世 帯
南 自主防災会	平成 21 年 10 月 1 日	893 世 帯
精華台一丁目トチノキ 自主防災会	平成 22 年 4 月 4 日	125 世 帯
南 稲 自主防災会	平成 23 年 1 月 23 日	447 世 帯
精 華 台 二 丁 目 自主防災会	平成 23 年 5 月 15 日	346 世 帯
柘 榴 自主防災会	平成 23 年 7 月 1 日	125 世 帯
舟 自主防災会	平成 23 年 7 月 25 日	361 世 帯
桜 が 丘 一 丁 目 自主防災会	平成 23 年 9 月 3 日	472 世 帯
北 稲 自主防災会	平成 24 年 4 月 1 日	333 世 帯

(2) 精華町防火委員会

昭和57年9月1日結成

幼年消防クラブ及び精華町婦人防火クラブの組織の育成及び組織の拡大強化と相互に連携し消防に関する知識の向上に努めるとともに各組織の健全な発展を図ることを目的としています。

(3) 精華町婦人防火クラブ連合会

昭和56年10月1日結成

精華町内の婦人防火クラブ相互の連携を密にし、住民に対する防火思想の啓発普及を図ることを目的としています。

(4) 婦人防火クラブ

一般家庭からの火災を予防し、我が家を火災から守るという自覚のもと、防火に関する研究を行い、知識の向上を図るとともに、火災のない平和で楽しいまちづくりのため、消防本部及び消防団と協力し、地域の防火思想の高揚と徹底を図ることを目的としています。

平成26年4月1日現在

名 称	結 成 年 月 日	ク ラ ブ 員 数
北 稲 婦 人 防 火 ク ラ ブ	昭 和 56 年 10 月 1 日	19 名
東 畑 婦 人 防 火 ク ラ ブ	昭 和 57 年 11 月 28 日	34 名
植 田 婦 人 防 火 ク ラ ブ	昭 和 58 年 3 月 1 日	37 名

(5) 精華町幼年消防クラブ

幼少期から「火」に対して教育し、「火災」の恐ろしさを知り、正しい「火」の取り扱いについての知識を身につけ、火遊びを防止するとともに、消防の仕事に対する理解を深めることを目的としています。

町内の幼稚園、保育所の単位でクラブを結成して活躍しています。

平成26年4月1日現在

名 称	結 成 年 月 日	ク ラ ブ 員 数
精華聖マリア幼稚園 幼年消防クラブ	昭 和 60 年 4 月 11 日	260 名
光が丘幼稚園 幼年消防クラブ	〃	304 名
ほうその保育所 幼年消防クラブ	〃	182 名
こまだ保育所 幼年消防クラブ	〃	137 名
いけたに保育所 幼年消防クラブ	平 成 3 年 7 月 1 日	124 名
星の光幼稚園 幼年消防クラブ	平 成 12 年 4 月 24 日	300 名
ひかりだい保育所 幼年消防クラブ	〃	187 名
せいかだい保育所 幼年消防クラブ	平 成 17 年 4 月 1 日	165 名

(6) 消防支援ボランティア

平成11年1月17日結成

各地の災害現場でのボランティア活動が注目され、その活動が活発になってきたのに伴い、本町でも町内在住の元消防職・団員の希望者がボランティア登録をし、大災害時に消防本部・消防団が実施する消火、救助、救急等の消防活動支援することを目的としています。

平成26年4月1日現在 ボランティア登録者数 82名

消 防 編



ポンプ車 1 号



ポンプ車 2 号

1 消防無線設置状況

平成 26 年 4 月 1 日現在

消 防 本 部 ・ 署														
加 入 電 話	火災報知 専用電話		庁 内 電 話	消 防 用 無 線			救 急 用 無 線			シ救 ス急 テム医 装療情 置報	福緊 社急 電通 報用 話用	フ緊 ァ急 ク通 ス報 用用	専携 用帯 回電 線話	呼職・ 出シ シス テム 非常
	精 華 局	木山 津 局城		基 地 局	移 動 局		基 地 局	移 動 局						
					車 載	携 帯		車 載	携 帯					
4	2	2	31	1	14	9	1	2		1	1	1	1	1

区分	設 置 場 所	電 力	呼 出 名 称	保 有 周 波 数
基地局	消防本部	10 w	せいかしょうほんぶ	1・2・3・4・7・8
移動局	普通消防ポンプ車 1 号	10 w	せいかしょう 1	1・2・3・6
移動局	普通消防ポンプ車 2 号	10 w	せいかしょう 2	1・2・3・6
移動局	水槽付ポンプ車	10 w	せいかしょう 3	1・2・3・6
移動局	救助工作車	10 w	せいかしょう 4	1・2・3・6
移動局	軽ダンプ	10 w	せいかしょう 5	1・2・3・6
移動局	消防団指揮広報車	10 w	せいかしょう 6	1・2・3・6
移動局	査察車	10 w	せいかしょう 7	1・2・3・6
移動局	水防車	10 w	せいかしょう 8	1・2・3・6
移動局	指令車	10 w	せいかしょう 9	1・2・3・6
移動局	婦人防火クラブ積載車	10 w	せいかしょう 11	1・2・3
移動局	防火広報車	10 w	せいかしょう 12	1・2・3
移動局	指揮車	10 w	せいかしょう 13	1・2・3・4・5・6
移動局	救急車 1 号 (高規格)	10 w	せいかしょう 91	1・2・3・4・5・6・7・8
移動局	救急車 2 号 (高規格)	10 w	せいかしょう 92	1・2・3・4・5・6・7・8
移動局	中隊長用	5 w	せいかしょう 21	1・2・3・4・5・6
移動局	第 2 小隊長用	5 w	せいかしょう 22	1・2・3・4・5・6
移動局	第 1 小隊長用	5 w	せいかしょう 23	1・2・3・4・5・6
移動局	一般用	5 w	せいかしょう 24	1・2・3・4・5・6
移動局	署長用	5 w	せいかしょう 25	1・2
移動局	警防課長用	5 w	せいかしょう 26	1・2・3・4・5・6
移動局	後発救急隊長用	5 w	せいかしょう 27	1・2
移動局	消防長用	5 w	せいかしょう 28	1・2・3
移動局	先発救急隊長用	5 w	せいかしょう 31	1・2・3・4・5・6

注. 1 波 市町村波
 3 波 全国共通波 (1)
 5 波 全国共通波 (3)
 7 波 救急波 (受信)
 2 波 府共通波
 4 波 全国共通波 (2)
 6 波 防災相互通信波
 8 波 救急波 (送信)

2 消防機械配置状況

(1) 消防本部・署

平成26年4月1日現在

種 別	メーカー	年式	排気量 (CC)	ポンプ 級別	備 考
普通消防ポンプ車1号	日野	H.23	4,000	A-2	CD-I型水槽700 ^{リットル}
普通消防ポンプ車2号	〃	H.10	4,560	〃	〃
水槽付消防ポンプ車	〃	H.12	8,200	〃	I-A型水槽1,500 ^{リットル}
救助工作車	〃	H.24	6,400		照明装置(高輝度パワー LED1,600kw×2) クレーン装置(ユニック UR343G) 前後ウィンチ(5t用)
軽ダンプ	ダイハツ	H.18	660	B-2	小型動力ポンプを積載
救急車1号	トヨタ	H.15	3,378		高規格救急車
救急車2号	日産	H.18	3,498		〃
指令車	三菱	H. 9	1,830		
水防車	〃	H. 7	3,560		最大積載量2t
水防資機材搬送車	いすゞ	H.17	4,777		ハイアウトリガークレーン装置 最大積載量3.5t
査察車	三菱	H. 9	1,590		広報マイク設備
指揮車	日産	H.20	3,490		
消火・通報訓練指導車	マツダ	〃	1,990		消火・通報訓練設備
赤バイク1号	ヤマハ	H. 2	49		
赤バイク2号	ホンダ	H.10	〃		
赤バイク3号	〃	H.15	〃		
小型動力ポンプ	トーハツ	H.18	617	B-2	横形2気筒水冷2サイクル

(2) 消防団

平成26年4月1日現在

部 名	種 別	メーカー・車種	年式	排気量 (CC)	型式	備 考
本 団	指 揮 広 報 車	日産 (ブルーバード)	H.11	1,800		広報マイク設備
第 1 分 団	第 1 部	積 載 車	トヨタ (ハイラックス)	H.12	2,980	
		小型動力ポンプ	トーハツ	〃	554	B-3 横形 2 気筒空冷 2 サイクル
	第 2 部	積 載 車	トヨタ (ハイラックス)	H.13	2,980	
		小型動力ポンプ	トーハツ	〃	554	B-3 横形 2 気筒空冷 2 サイクル
	第 3 部	積 載 車	ダイハツ (ハイゼット)	H.16	659	
		小型動力ポンプ	トーハツ	〃	554	B-3 横形 2 気筒空冷 2 サイクル
	第 4 部	積 載 車	ダイハツ (ハイゼット)	H.26	659	
		小型動力ポンプ	トーハツ	〃	617	B-2 横形 2 気筒空冷 2 サイクル
第 2 分 団	第 1 部	積 載 車	トヨタ (ハイラックス)	H.12	2,980	
		小型動力ポンプ	トーハツ	〃	554	B-3 横形 2 気筒空冷 2 サイクル
	第 2 部	積 載 車	ダイハツ (ハイゼット)	H.16	659	
		小型動力ポンプ	トーハツ	〃	554	B-3 横形 2 気筒空冷 2 サイクル
	第 3 部	積 載 車	ダイハツ (ハイゼット)	H.20	659	
		小型動力ポンプ	トーハツ	〃	617	B-2 横形 2 気筒空冷 2 サイクル
	第 4 部	積 載 車	ダイハツ (ハイゼット)	H.24	659	
		小型動力ポンプ	トーハツ	〃	617	B-2 横形 2 気筒空冷 2 サイクル
第 3 分 団	第 1 部	積 載 車	トヨタ (ハイラックス)	H.10	2,980	
		小型動力ポンプ	トーハツ	〃	554	B-3 横形 2 気筒空冷 2 サイクル
	第 2 部	積 載 車	トヨタ (ハイゼット)	H.20	659	
		小型動力ポンプ	トーハツ	〃	617	B-2 横形 2 気筒空冷 2 サイクル
	第 3 部	積 載 車	ダイハツ (ハイゼット)	H.25	659	
		小型動力ポンプ	トーハツ	〃	617	B-2 横形 2 気筒空冷 2 サイクル
	第 4 部	積 載 車	ダイハツ (ハイゼット)	H.10	659	
		小型動力ポンプ	トーハツ	〃	554	B-3 横形 2 気筒空冷 2 サイクル

(3) 婦人防火クラブ

区 分	種 別	メーカー・車種	年式	排気量 (CC)	ポンプ 級別	備 考
連 合 会	防 火 広 報 車	いすゞ (ファエゴ)	H. 7	1,990		広報マイク設備
	婦 防 積 載 車	スバル (ビビオ)	H.10	658		〃
	小型動力ポンプ	トーハツ	〃	198	C - 1	立形単気筒空冷 2 サイクル

3 特殊機械器具等配置状況

平成26年4月1日現在

		仕 様	数量	性 能
消 火 用 器 具	ジェットシューター	容量18L	16	放水射程10m
	組立水槽	C型ビニールターポワン耐酸性	2	容量1.5t
	ク	角型 K2	3	ク 2.5t
	放水銃	65(21/2B)	1	放水角度無段階
	無反動65用eノズルホルダー	ガンタイプノズル型(PEH-65K)	2	
	無反動40用eノズルホルダー	ガンタイプノズル型(PEH-40A)	5	
	クアドラフォグノズル	可変40mm フォグガン	9	流量調節機能付放水量470L/min 以上
救 助 用 器 具	チタン三連はしご	全長8.7m、折込3.5m、最大使用荷重120kg	4	使用角度約75度
	アリゾナボーテックス	重量約30kg	1	
	救助用三脚	重量14.5kg 素材：アルミニウム	1	
	かぎ付きはしご	チタン製	4	
	金属製折りたたみはしご	チタン製	3	
	ワイヤーはしご	7m、7m、15m	3	
	救命索発射銃	口径63mm、ミロク式 M-300	1	到達距離90m
	可搬式ウインチ	チルホール TU-16	3	けん引能力1.6t
	セキユネット	ホルマトロ製	1	エアバックの二次的膨張を防ぐ。
	ステップチョーク A セット	使用荷重100kg/cm ² 使用温度範囲 -20℃～50℃	1式	ステップチョーク2、ウェッジ大2、小2
	ロックブロック B セット	使用荷重100kg/cm ² 使用温度範囲 -20℃～50℃	1式	ロックブロック大2、中2、小2 ウェッジ大2、小2
	ハイパワーカッター	質量11.7kg×CU3020 質量19.1kg×CU4050	2	
	ハイパワースプレッター	質量18.3kg×SP3230 質量19.2kg×SP4240	2	
	油圧エンジンポンプ	TPU15 DPU31PC	2	送油能力19MPa 無負荷時流量2590cc/分
	ハンドポンプ	質量17.6kg×HHT1800 質量11.5kg×HTW1800	2	油圧オイル量1.8L
	マット型空気ジャッキ一式	KPI-5、17、22、32、44(2個同特使用可能)	1	荷重4.8t～43.8t
	エンジンカッター	K1200-II(排気量100cc)、K760、K970	4	
	ガス容断器(ニューチョパック)	重量30kg(アセチレンガス使用)	2	連続60分間切断可能
	チェーンソー	重量6.5kg	3	8,500RPM、8.5m/sec
	有害ガス検知器	XPO-317、GX-85N、XOS-2200	3	自動吸引式
	ワイヤーバスケット(タイタン T1)	重量6.6kg 材質：チタン	1	
	バスケットストレッチャー	モデル71	1	
	空気呼吸器	K2型・ドレーゲル・L2型	35	
	携帯警報器	スーパーパス	15	
	空気ボンベ	8.4l×14.7MPa 4.7l×29.4MPa 6.8l×29.4MPa	35	
	化学防護服	防護服レベル A×4 レベル B×2 レベル C×4	10	

		仕 様	数 量	性 能
救 助 用	救命胴衣	NQS-7型 TK-14A	21	浮力約8.0kg
	救命ボート	F-12A (船外機取付可能)	1	7人乗(アルミ製)
	船外機	トーハツ M9.9B2	1	出力9.9PS
	メタハラ投光器(可搬式)	MP-150AB-WG	6	150万 cd
	移動式投光器(ミニテラスター)	発電機付、水銀灯400w×2	3	高さ2.02～4.2m
	発電機	YAMAHA EF2500i	1	
	〃	クボタ G600SN3	3	60KVA、48kw
	高圧コンプレッサー	AK13BPX W 形四段圧縮空冷式	1	最大吐出圧力29.4MPa 以下
	スタティックロープ		6	50m×2、100m×4
	シングルプーリー	ベツル社製	7	破断強度36kN、運用荷重8kN
	セルフジャミングプーリー	ベツル社製 プロトラクション	2	
	ダブルプーリー	ベツル社製	2	破断強度44kN、運用荷重12kN
	〃	ベツル社製 スイベル付き	2	破断強度36kN
	セルフブレーキ下降器	ベツル社製 アイディ	2	パニック防止付き
	下降器	ベツル社製 ラック×1 角付き×2	3	
	ロードリリースストラップ	CMC 製	2	破断強度36kN
	ロープクランプ	ベツル社製 アッセンション	4	左用×2、右用×2
	救助用ハーネス	〃 ファルコン	3	
	〃	〃 フルハーネス	5	
	救助用縛帯	〃 ピタゴール	2	
器 具	リギングプレート	〃 ポー M	2	最小破断強度36kN
	グラスマスター	ウインドボンチ付	3	
	携帯拡声器(ハンドマイク)		10	
	トランシーバー	スタンダード社製	18	
	インフレーターボート (救助ボート)	アキレス社製	1	6人乗り
	サーフェスドライスーツ	SAKURA 社製	4	
	ブルーストーム プロ	〃	4	浮力約10.7kg
	スイフトウォーター ヘル メット	CMC 製	4	重量約510g
	削岩機	COBRA	1	
	探索カメラ	プロカム PC-780S	1	伸長時約4200mm 収縮時約930mm
具	熱画像カメラ	アルゴス4-320	1	スポット温度範囲0℃～800℃
	個人線量計	PDM-222-SH CPXANRFA30	8	r 線 x 線
	線量率測定器	RadEye G-10	2	γ 線 x 線
	表面汚染検査計	RadEye B-20	1	α 線 β 線 γ 線 x 線
	ペダルカッター	オグラ社製(OMC-923)	1	切断力70.6kN
	ガス測定器	アルティア4 アルティア5 シリウス	3	
	レスキューバーティカルス トレッチャー	ferno 社製	1	
	コードレスコンビツール	オグラ社製	1	
	チップソーカッター	マキタ社製	1	

		仕 様	数量	性 能
救 急 用 器 具	救急伝送装置	日本光電 WEC-2003・WEC-2004	2	心電図等伝送用
	携帯型自動車電話	NTT ドコモ F-08B	2	〃
	救急伝送受信装置	日本光電 WEC-2103	2	心電図等受信用
	自動体外式除細動器	日本光電 TEC-2513/ レールダル FR2	3	
	ポータブルレサシテーター	LSP 型デマンドバルブ仕様	2	携帯型自動式人工蘇生器
	全身固定用ロングボード	ファerno製 モデル2010	4	
	紫外線殺菌灯	スペースライザー（移動式）	1	
	スキルメータ・レサシ・アン	換気量、心臓マッサージ適否を表示	6	成人用心肺蘇生法訓練人形
	レサシ・ジュニア		3	少年用 〃
	レサシ・ベビー		1	乳児用 〃
	スクープストレッチャー	ファerno モデル65・モデル65EXL	3	
	バキュームスプリント	FW-20-12-97	2	陰圧固定式
	ショックパンツ(成人用)	LSP 型、MAST 型	3	下肢圧迫による血圧保持
	ショックパンツ(小児用)	LSP 型	1	〃
	電池式自動吸引器	3電源方式、2段調整 レールダル	4	血液、嘔吐物等の吸引
	電動吸引器	パワーミニック	3	〃
	エクステンジストレッチャー	モデル155-4	2	
	〃	モデル4155 ファerno製	1	
	ベインライト EMS	コーケンメディカル製	2	静脈検出用ライト
	患者監視装置	日本光電 BMS-4103	2	心電図、非観血圧、SpO2
	自動式心マッサージ器	HLR 型	2	動力源：酸素
	耐振動血圧計	アネロイド型(ハンド式)	2	
	高度救命処置シュミレーター	高研 -LM051A	1	特定行為実習用
	AED トレーナー	メドトロニクス社・レールダル社・日本光電	6	救命講習用
	スピードボード	コーケンメディカル(株) KOM810型	2	脊椎固定器具
	気道管理トレーナー	レールダルメディカルジャパン社製	1	気管挿管訓練用
	二酸化炭素モニター	カプノチェックII	1	
	階段避難器具	モデル1-300H(イーバックチェア)	1	
	車載型人工呼吸器	オキシログ2000・パラパック2000	2	
	心肺蘇生訓練人形	(株) ヤガミ	4	成人・乳児用心肺蘇生法訓練人形
	小児用全身固定具	モデル78 ペディパック	1	

4 消防水利の現状

(1) 消防水利の現状

平成26年3月31日現在

管区別 種 別	第10管区		第20管区		第30管区		桜が丘		光台		精華台		合 計	
		指		指		指		指		指		指		指
防 火 水 槽	67	9	68	9	36	4	23	2	66	31	49	25	309	80
	71	10	68	9	36	4	23	2	66	31	50	26	314	82
消 火 栓	178		165		42		128		169		163		845	
	258		291		131		128		190		165		1,163	
プ - ル	2		1		1		2		2		2	1	10	1
	2		1		1		2		2		2	1	10	1
池 井 ・ 沼 戸 等														
合 計	247	9	234	9	79	4	153	2	237	31	214	26	1,164	81
	331	10	360	9	168	4	153	2	258	31	217	27	1,487	83

注1. 上段は、基準に適合する水利を示し、網掛け内は現有水利を示す。

2. 「指」は、指定消防水利を示す。

(2) 防火水槽の現状

平成26年3月31日現在

管区別 種別		第10管区		第20管区		第30管区		桜が丘		光 台		精華台		合 計	
			指		指		指		指		指		指		指
有蓋式	40㎡未満	3	1									1	1	4	2
	40㎡以上	68	9	68	9	36	4	23	2	66	31	49	25	310	80
無蓋式	40㎡未満														
	40㎡以上														
合 計		71	10	68	9	36	4	23	2	66	31	50	26	314	82

注. 「指」は、指定消防水利を示す。

統計編



水槽車



救助工作車

1 月別火災発生状況

平成25年中

項 \ 月		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
火災 件数	建物					2		1				1	1	5
	林野													
	車両					1	1							2
	その他						1					1		2
焼損 棟数	全焼													
	半焼												1	1
	部分焼					2								2
	ぼや							1				1		2
り災 世帯	全損													
	半損												1	1
	小損					2		1						3
り災人員													2	2
焼損 面積等	建物(㎡)					3		1					10	14
	林野(a)													
	車両(台)					1	1							2
	その他(㎡)						1,025					0		1,025
死傷 者	死者													
	負傷者													
損害 見積額 (千円)	建物					120		128					1,192	1,440
	収容物					129								129
	林野													
	車両					90	2							92
	その他						30					1		31
合計						339	32	128				1	1,192	1,692

注：焼損面積(㎡)の合計値は小数点以下四捨五入。

2 曜日別覚知別火災発生状況

平成25年中

項目 曜日	専用電話	加入電話	事後聞知	駆け付け	携帯電話	その他	合 計
月	1	1					2
火		1					1
水			2		1		3
木	1		1				2
金							
土							
日	1						1
合 計	3	2	3		1		9

3 時間帯別種別火災発生状況

平成25年中

項目 時間	建 物	林 野	車 両	そ の 他	合 計
0時 ～ 3時 まで					
3時 ～ 6時 まで			1		1
6時 ～ 9時 まで	1				1
9時 ～ 12時 まで	2			1	3
12時 ～ 15時 まで				1	1
15時 ～ 18時 まで			1		1
18時 ～ 21時 まで	2				2
21時 ～ 24時 まで					
合 計	5		2	2	9

4 火災原因別発生状況

平成25年中

種 別	放火・ 放火の疑い	たばこ	コンロ	ストーブ	電気機器・ 配線	火遊び	その他	合 計
建 物 火 災	1	1	1				2	5
林 野 火 災								
車 両 火 災					1		1	2
その他火災	1						1	2
合 計	2	1	1		1		4	9

5 月別消防事故発生状況

平成25年中

種 別	燃焼放置	漏洩・流出	発報	無損	その他	合 計
月	1	1	4		3	8
	2	1	2	1	4	8
	3			5	1	6
	4	2	2	1	1	6
	5	1		1	2	4
	6	1	1	1	1	4
	7	3			1	4
	8	2		1		3
	9	1	2		2	7
	10		2	1	4	7
	11				1	1
	12	2	2	1	1	6
合 計	5	19	8	11	21	64

注：消防事故とは、火災危険があったものの、火災として扱わない事案等をいう。

種別については下記を参照にして下さい。

種別については下記を参照にして下さい。

燃焼放置	枯草焼却等を放置し、火災拡大危険のおそれがあるもの。
漏洩・流出	ガス・ガソリン等漏洩又は流出し、災害危険があるもの。
発 報	火災報知器が故障・いたずら等により作動したもの。
無 損	火災として扱わない損害額のないもの。

「火災」の定義

火災とは以下の3つの要素が含まれているものをいいます。

火災の3要素

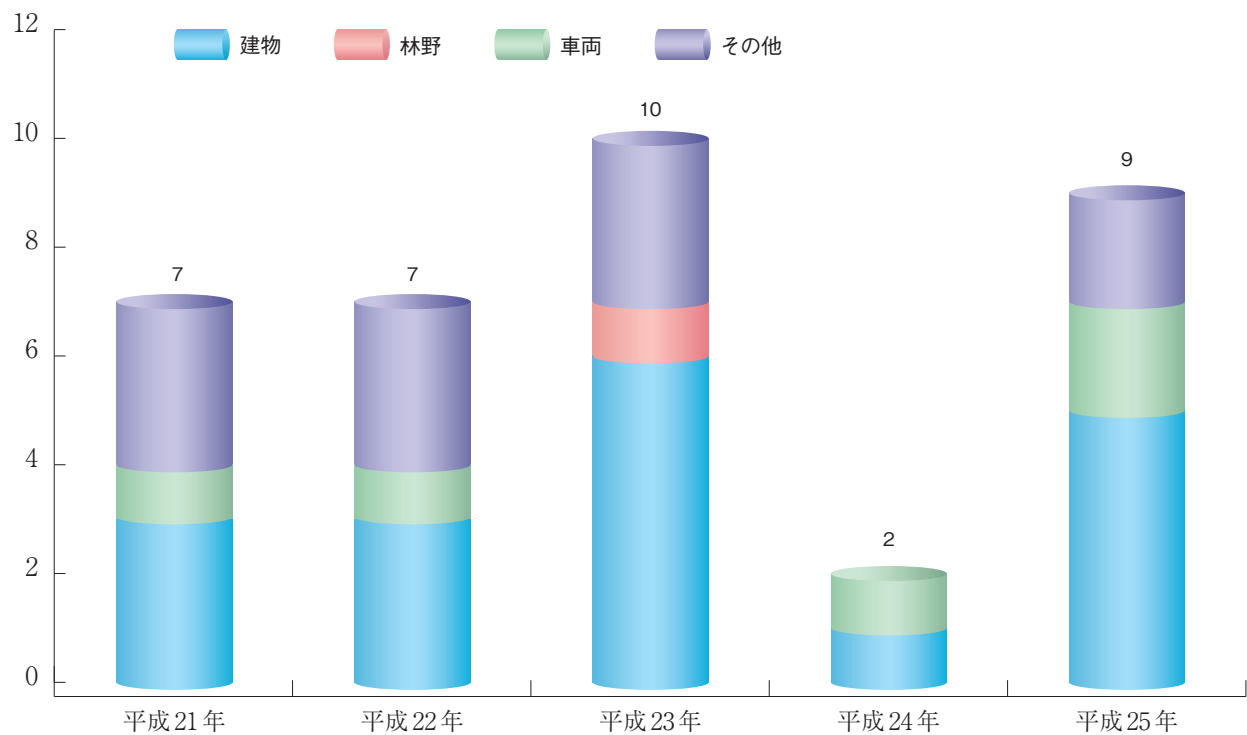
「人の意図に反し又は放火により発生」

「消火の必要がある燃焼現象」

「消火設備又はこれと同程度の効果のあるものの利用を必要とする」

6 過去5年間の火災件数推移

区分 \ 年別		平成 21 年	平成 22 年	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年
発生 件 数	建 物	3	3	6	1	5
	林 野			1		
	車 両	1	1		1	2
	そ の 他	3	3	3		2
	合 計	7	7	10	2	9
損 害 額 (千円)		421	1,020	42,710	642	1,692



7 救急状況

平成25年中

月		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
種 別	火 災									1				1
	自然災害													
	水 難													
	交 通	9	9	9	9	10	13	10	14	7	10	5	16	121
	労働災害	2					1	1	2	2		1	2	11
	運動競技	1	1		1		5	1			2			11
	一般負傷	13	14	18	13	6	14	12	12	24	22	20	11	179
	加 害	1							1		1			3
	自損行為	3	1	2	1	4						1	2	14
	急 病	62	54	64	39	60	59	62	65	50	55	58	64	692
	そ の 他	9	16	10	14	8	10	11	8	13	19	9	9	136
合 計		100	95	103	77	88	102	97	102	97	109	94	104	1,168
内、不搬送件数		6	4	6	2	4	4	3	3	5	5	3	5	50

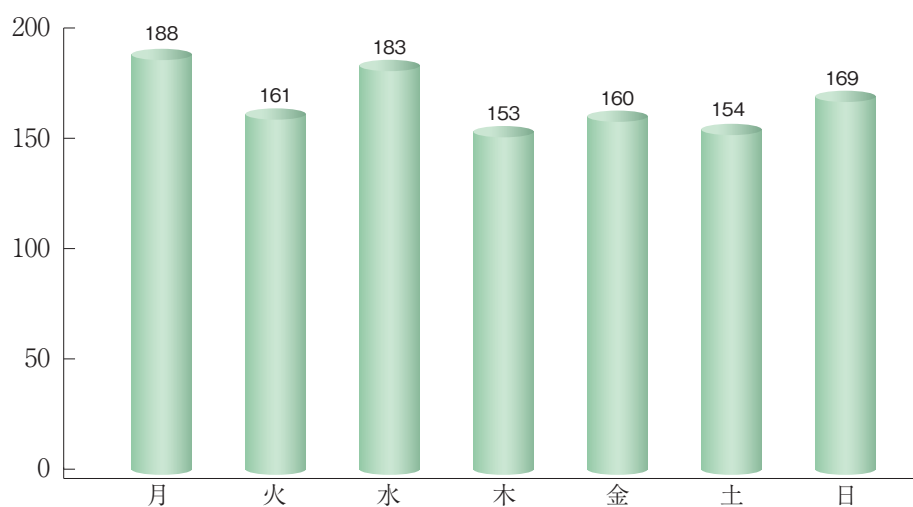
注：救急出動の一日平均件数及び月平均件数は下記のとおりです。

月平均出動件数	97.3件	(救急出動1,168件／12月)
一日平均出動件数	3.2件	(救急出動1,168件／365日)

8 曜日別救急出動状況

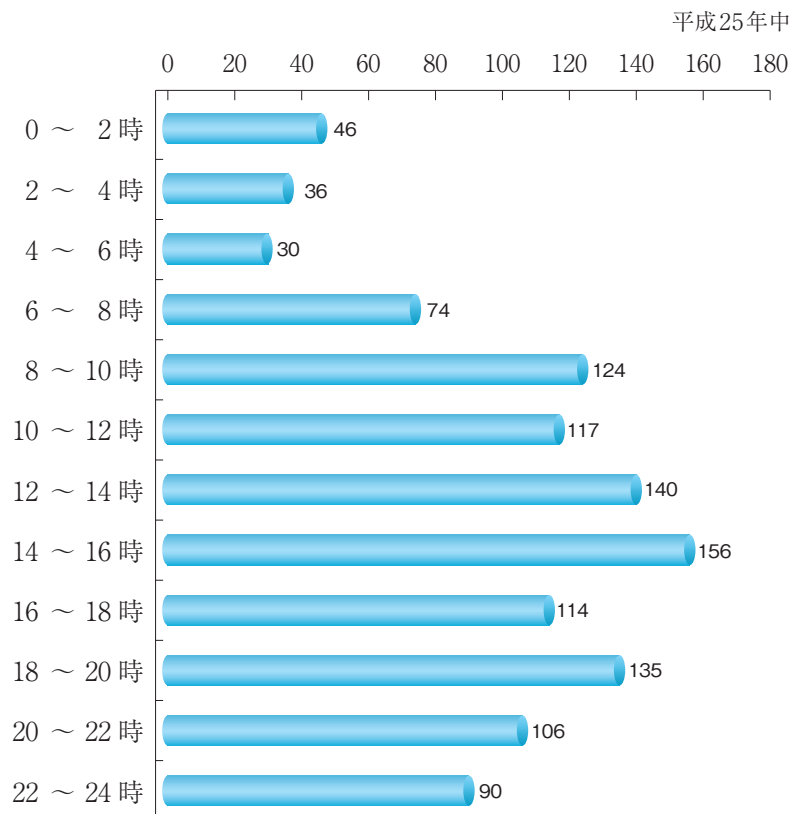
平成25年中

曜日	件数
月	188
火	161
水	183
木	153
金	160
土	154
日	169
合計	1,168



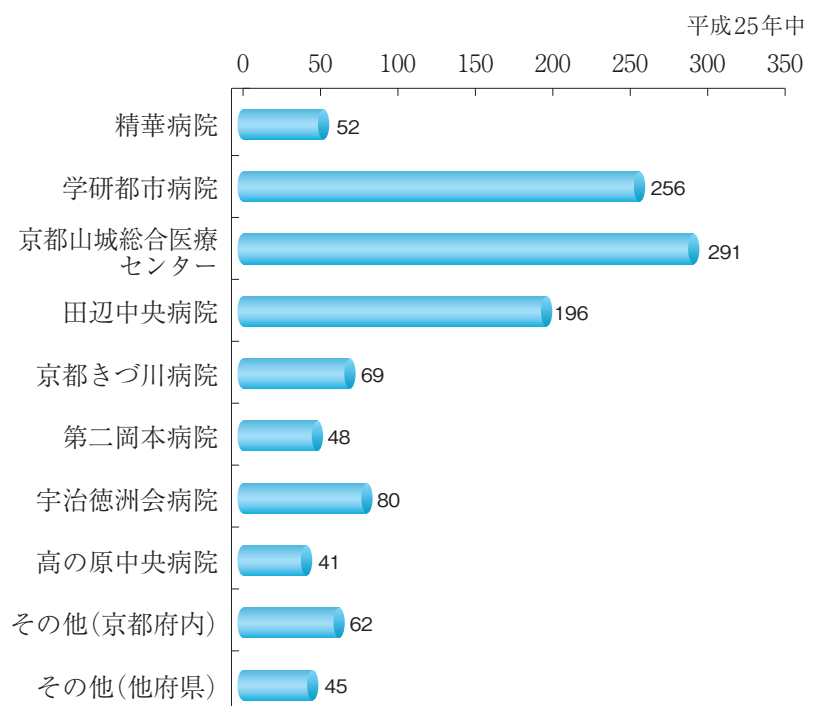
9 時間帯別救急出動状況

時 間 帯	件数
0 ～ 2 時	46
2 ～ 4 時	36
4 ～ 6 時	30
6 ～ 8 時	74
8 ～ 10 時	124
10 ～ 12 時	117
12 ～ 14 時	140
14 ～ 16 時	156
16 ～ 18 時	114
18 ～ 20 時	135
20 ～ 22 時	106
22 ～ 24 時	90
合 計	1,168



10 病院別搬送人員状況

病 院 別	人員
精華病院	52
学研都市病院	256
京都山城総合医療センター	291
田辺中央病院	196
京都きづ川病院	69
第二岡本病院	48
宇治徳洲会病院	80
高の原中央病院	41
その他（京都府内）	62
その他（他府県）	45
合 計	1,140



11 年齢区分別事故種別救急搬送人員状況

平成25年中

年 齢 区 分		新生児	乳幼児	少 年	成 年	老 人	合 計
種 別	火 災					1	1
	自 然 災 害						
	水 難						
	交 通		2	20	78	30	130
	労 働 災 害				9	2	11
	運 動 競 技			7	4		11
	一 般 負 傷		24	9	49	94	176
	加 害				2	1	3
	自 損 行 為				9	2	11
	急 病		24	19	221	402	666
	そ の 他	1	2	7	36	85	131
合 計		1	52	62	408	617	1,140

注． 新生児 生後28日以内の者
乳幼児 生後29日以上満7才未満の者
少年 満7才以上満18才未満の者
成年 満18才以上満65才未満の者
老人 満65才以上の者

12 事故種別傷病程度別救急搬送人員状況

平成25年中

傷 病 程 度		死亡	重症	中等症	軽症	その他	合 計
種 別	火 災			1			1
	自 然 災 害						
	水 難						
	交 通		5	20	105		130
	労 働 災 害		1	3	7		11
	運 動 競 技		1	4	6		11
	一 般 負 傷	2	3	62	109		176
	加 害			1	2		3
	自 損 行 為	3	1	6	1		11
	急 病	19	36	319	292		666
	そ の 他		15	101	14	1	131
合 計		24	62	517	536	1	1,140

13 行政区別事故種別救急出動状況

平成25年中

種 別		火災	自然災害	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他	合計
行政区別	菱田				5		1	13	1	1	32	4	57
	滝ノ鼻				2			1			15		18
	中久保田										3		3
	舟里				1	1		6		1	18		27
	僧坊	1			3		3	14	1		53	1	75
	谷旭				3			1			5		9
	旭							1		1	4		6
	北稲八間				10	1	1	12			38		62
	南稲八妻				6			11	1		35		53
	植田				7	1		5			19	1	33
	菅井				3			1			4		8
	北ノ堂				1			3			15		19
	馬測										15		15
	南				7			14		4	51	29	105
	祝園西一丁目				7			12		1	31	6	57
	中				1			2			5		8
	東				2			6			25	1	34
	西北				1					1	4		6
	山田				1			8		1	15		25
	乾谷				2						11	1	14
	柘榴				5			4			9		18
	東畑				1	1		3		2	22		29
	桜が丘一丁目				1	1		6			17		25
	桜が丘二丁目							4			13		17
	桜が丘三丁目				4	1		5		1	12	2	25
	エスペローマ							1			3		4
	桜が丘四丁目				1			2			17	2	22
	光台一丁目				12	1		2			6	1	22
	光台二丁目				2		1				3		6
	光台三丁目				8	1							9
	光台四丁目							3			17		20
	光台五丁目				1	1		5			12		19
	光台六丁目							2		1	10		13
	光台七丁目				1			5			30	12	48
	光台八丁目							5			28		33
	光台九丁目				1		4	1			7		13
	精華台一丁目				1			2			11	1	15
	精華台一丁目チノキ							1			5		6
	精華台二丁目				2			3			11	4	20
	精華台二丁目イングス				1			2					3
	アズ・マニッシュ、コート										2		2
	精華台三丁目				2			1			5	8	16
	精華台四丁目				2			4			11	1	18
	精華台五丁目					2		1			1		4
	精華台六丁目				1			2			4		7
	精華台七丁目				5						3	62	70
	精華台八丁目												
	精華台九丁目				3			3			11		17
	管外				2						1		3
	その他												
合 計		1			121	11	11	179	3	14	692	136	1,168

14 救急応援出動件数

平成25年中

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
月別出動件数	100	95	103	77	88	102	97	102	97	109	94	104	1,168
内、応援出動件数	12	7	4	8	12	6	10	8	7	6	10	9	99

※救急応援出動とは

救急隊のみの活動に支障がある場合、消防隊等が活動支援のための出動をいう。

応援出動の基準

- C P A（心肺停止状態）又はC P Aが疑わしいとき
- 建物2階以上で活動障害が疑われるとき
- 自動車専用道路での交通事故のとき
- 交通事故の覚知を複数回線受信したとき
- 状況がまったく不明のとき
- 救急隊が要請したとき



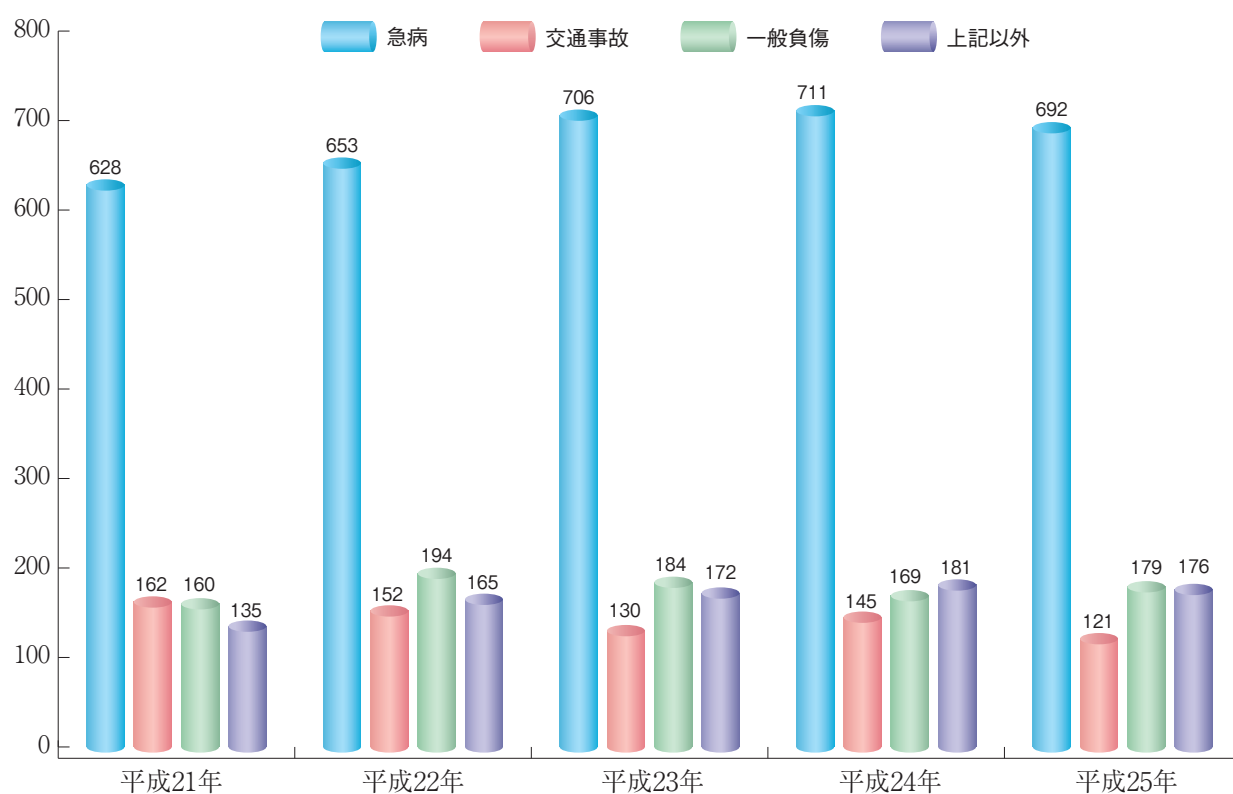
救急車1号



救急車2号

15 過去5年間の救急件数推移

区 分	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年
急 病	628	653	706	711	692
交 通 事 故	162	152	130	145	121
一 般 負 傷	160	194	184	169	179
上 記 以 外	135	165	172	181	176
合 計	1,085	1,164	1,192	1,206	1,168



16 病院紹介状況表

平成25年中

	内科	外科	小児科	整形外科	脳外科	その他	合計
件 数	445	138	383	180	71	152	1,369

17 月別救助発生状況

平成25年中

項			月												合計
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
種 															

18 過去5年間の救助件数推移

区 分	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年
火 災					
交 通	14	11	9	16	13
水 難	1				1
自 然 災 害					
機 械	2				1
建 物	2		3		1
ガ ス 及 び 酸 欠		1			
破 裂					
そ の 他	2	3	4	7	6
合 計	21	15	16	23	22

平成26年度 発行

精華町消防本部

〒619-0244 京都府相楽郡精華町大字北稲八間小字寄田長31番地
TEL 0774-94-5119(代) FAX 0774-94-5493